

# 大阪方言談話資料の分析 文法とアクセント

山 口 幸 洋・岸 江 信 介

Discourse Analysis in the Osaka Dialects

Koyo YAMAGUCHI, Shinsuke KISHIE

## Abstract

We try to show the method of analysis through discourse in the Osaka dialects. We deal particularly with Senba and Kawachi dialect as an example of Osaka dialect. Because both these dialects are well-known for main Osaka dialects and still remain traditional and old feature of Osaka dialect.

On this article, Yamaguchi describes the feature of Osaka accent based on both two dialects and shows the method of analysis of accent. Kishie shows treat expression including mainly an honorific expression, and compares the difference between these dialects.

## I. 談話資料の採集と分析

かつての「大阪弁」を代表する船場言葉と河内弁も、最近は一と頃の面影を失いつつある。小説や映画、テレビドラマなどでこれまで再三取り上げられ、ともに全国的に有名になった、それら大阪方言の変貌がいま著しい。近年の大都市における伝統的方言の亡失は、秋永一枝氏「東京弁は生きている」の東京に劣らず、西の大阪もはなはだしいのである。

筆者が平成の世に生きる方言を記録する、『大阪府言語地図』の作成に向けて、大阪府下各地で方言調査を実施したのはすでに10年以上の前のことになった。その頃、単語本位の方言ばかりでなく、話し言葉全体に見られる伝統的なスタイルをも記録する必要を感じて、たまたま大阪市生野区と八尾市に在住の大阪弁話者お二人から貴重な方言談話資料を収録することができた。大阪市生野区では、丸山喜美子氏(明治44年生まれ)で大阪の船場の出身、八尾市では、橋本徳三郎氏(明治45年生まれ)で中河内出身、いずれもまぎれもない「船場言葉」、「河内弁」の話し手である。お二人はたまたま明治末の同年にお生まれになった方で、それぞれ調査を通じてお会いできた。お話をお伺いしたのは平成2年11月ではほぼ同時期、この時、男女の違いはあるものの、これほどまでに「船場」と「河内」の言葉は違うものかと大変印象深かった記憶が今もまだ鮮烈に残っている。船場言葉と河内弁の一般的に思われている特徴の違いとは、船場言葉は談話テンポが遅く上品なのに対し、河内弁は逆にテンポが速く、まくし立てる調子で荒々しいといった点である。このように、これまで両者の談話がこうして同時に対照的に取り上げられて、検討されるということはなかった。

ここで取り上げる両方言の談話資料とも数十分程度のものであるが、船場言葉と河内弁の特色がよく表れた談話録音資料で、大阪方言研究のためにだけでなく、時代を記録するナマの資料として有益であると確信する。

現在の大阪市中央区船場は、地理的に大阪市内中央部に位置している。かつて商人の町として栄えた時代の景観は全く失われたといってもよく、現在では船場センタービルを中心にオフィス街化しており、昔から今もなお船場で暮らしている方々の姿を見かけることはなくなった。船場という地名は残ってはいるものの、大阪弁の代表的存在だった船場言葉は現在の大阪船場からは完全に消えてしまったと言わざるを得ない。一方、大阪市の東部に隣接する地域はかつて河内と呼ばれた地域で、北から南にかけてそれぞれ北河内(枚方市・門真市など)、中河内(東大阪市・八尾市など)、南河内(富田林市・南河内郡の各町村など)に区分される。これらの三地域の中でも、小説や映画で名を馳せた

のは中河内地域（八尾市）の河内弁であるが、この中河内地域も現在では、大阪市との境界が曖昧に思えるほど、ビルなどが建ち並ぶようになっており、ことばの上からも大阪市内ではなされることばとほとんど区別できない状況になっている。

このような事情から、とりわけ船場言葉と河内弁の収録と文字化が重要な意味を持つということができよう。

談話収録の状況は、両資料とも、話者に対して、調査者が聞き手となり、お話を伺うという形式となっている。当資料に関して、録音収集はともに岸江が行い、文字化は山口が担当した。

方言談話資料は、その土地の言葉を記述・分析する上で有効な資料であり、本稿では、主に談話資料テキストを提示することを中心に据え、談話資料分析の試みとして、部分的となるが、まず、「文法の特徴について」として、待遇表現について触れる（岸江担当）ことにしたい。また、「単語アクセントの抽出」として、談話に現れる語アクセントについての分析（山口担当）を行う。

両方言の記述分析、とりわけ文法的な特徴については、ここで掲げた談話資料を中心に用い、これまで船場など収集されている談話資料や、調査票に基づいた大阪方言の調査研究なども必要に応じて参照及び引用することにした。

また、語アクセントについての分析については、これまで単語読み上げを中心としたアクセント研究は行われてきたものの、談話をベースにした大阪のアクセントへのアプローチはなく、あくまでもテストケースとしてだが、この視点からの分析の意義と必要性を説くとともに、船場・河内両方言アクセントの実態に迫りたいと思う。

## Ⅱ. 大阪・船場ことば録音資料

〔録音状況〕 大阪市生野区にある話者自宅での録音。

〔日時〕 1990年11月1日

〔話者〕 丸山喜美子（M44生まれ）。

聞き手・岸江信介の言葉は（ ）内に記す。

【音韻覚え書き】 子音間母音は総じて有声・無声の中間音である。

＊＊言い差し。

？意味不明。

## 【アクセントピッチ説明】

[↑] 上昇。高起こし（高起式発音の第1拍が高い発音）は冒頭に上昇があるとみる。

[↓] 下降。[、] ポーズ。高止まり後のポーズを挟む第1拍は原則的に低い。

01 ア「ソーデ」ス オコメノホ」ー アッ「セ」ヤカラ アー イマ「ソナイ 今\*0

02 オッシャ」ツタケド アノ「オトコノコ」ガ「デキルトネ」ー アノ ミ」ナ

子1

03 「オーサカデワ」ネ、アノー「アレデス」ネン「ナツマ\*\* あれ0

04 イマ「コ」ソ「ナツマ」ツリモナ「ン」ニモ アレ「シマセンケ」ド「ネ 今\*0

05 ムカシワ「ナツマ」ツリユ」ーテ ミ」ナ「ネ、アノー マ」クハッ「テ」ネ、

皆1、幕1

06 チヤント「シ」タモンデ「ス」ネン ムカシ「ワ、ンデ ヨ「ミ」ヤノト」キニ「ネ、

時1

07 「オトコノ」コノアル「ト」コエワ「ネ、コノ「ネ、「チャー」チンオ「ネ、ダシテ  
「ネ、 所1

08 カドエ「ナラベテアリマ」シタ。「ソレガ」イクツ「ミッツ」アッ「タ」ラ 門0

09 オ「コ」ガ ボン「ボ」ン サンニン「イテハ」ンネ「ナ」ーテオモーン「デ」シテ  
ホイデ(ぶらさげて) 御子2

10 「チャー」チンユエ「ネ、「コノサ」オガアッテ「ネ、ホンデ アノ 竿1

11 タカハリノ「チャー」ンガアッテ「ネ、ホデ「ミ」ナ「マッキ」?ノシタヤラ

皆1、下0

12 リッパナモ」ンデンネデ、「ソナ」ンガアリマ」シテ「ネ、デ、「ソノコ」ロ  
「コーシ」タ 頃1

13 「アシノト」コ「デ、タテ「テ」アリマ」シテン デ「ソレガ」、イク「ツ」カ

足0、所2

14 「ナランデ」マシテ「ナ、デ、「ソレオ、ミセノヒ」トガ それ0、店0、人1

15 ヨ「ミ」ヤニ「ソレオ」モッ「テ、オミヤサンエ「イ」ッテ ホンデアー「ソレガ、

それ00

16 ヨミヤ「マ」イリデ「ネ、「ソノト」キ「ニ、オミヤサン「デ、マ」タ「ゴキトーシテ  
モ」ライ 時1

17 「ソシテ、ソコ」エ マ」タ アノ ナニオ「ハッテモライマス」ネン「ソナ、

そこ2、何\*0

18 ソイデ ズーット「ナ、「ナラベテ」アッタ ワタシ「ア」ノ 「フ」ーケー

- 19 「オモイダス」ワ「ア」ノマ「クハ」ッテ「ネ、ホンデココ「ノ」 ボン「ボ」ンコン  
ダケ 幕1、ここ0
- 20 「イテハンネナ」ー「ユー」ノガ ヨー「ワカリマン」ネ
- 21 「ソレガタッ「タ」ールト（面白いですね）「ソンナ」ンデシ」タ「ヨ、 それ0
- 22 タ「イ」ソーニ「シテ」アリマシ」タ ホンデモー イ「エデモ 家1
- 23 「キ」レーニ「ミ」セデモ 「カタズ」ケテ ビョーブ「ハッタ」リ「シ」テ、ンデ  
マー
- 24 「モチロン ソノ」チョ「ー」ナイニヨ」ッテ オワタリ「ガ」アッ「タ」リシ」マシ  
テ「ネ、
- 25 シ」タ「モ」ンデスケ」ド モーイ「マ」ワ、ソーユーコ」トワ モー ゼン「ゼ」ン、  
モー 今1
- 26 スンデ「ナ」サルオカタガ「チガイマスモ」ノ 「ソノト」ージノオカタ
- 27 「オラレマセン」デショ「ー、オソ」ラ「ク、ミナ」サン モー
- 28 ホカエ「チッテシモーテハルヨ」ッテ 「ミ」ナ「ヤカレテシ」モテ 他0、皆1
- 29 マ ソラ 「ノコッテハル」オウ「チ」モナンゲ「ン」カワ 「チ」ホーデモアリマ  
「ス
- 30 「セ」ヤサカイ マ 「ソーユー」オウ「チ」ワ モーアノ 「ジダイガカワッテキ」  
タカラ
- 31 「ソンナコ」トナ「サイマセ」ンケド「ネ、マーシンノーサンノト」キ「ニ」ワア  
ノ 事1、時1
- 32 シンノーサン「ユ」ーテ「ネ、アノー「メージ」セツヤナイ」ワアノ 「コノ
- 33 ジューイチガツ」ノ「ニ」ジュー「サ」ンニチカ 「ソレ「ガ、アノ それ0
- 34 オクスリヤサンノ「ネ、アノー オマツリ「デ」 オクスリ「ヤ、ホンデ、
- 35 オクスリヤサ「ン」バツ「カ」シノ アノー「ドショー」マチニワ「ネ、ソノ
- 36 「カ」ミサンガ「オラレマシ」テ ソ「コ」エ ミ」ナ「ネ オマイリニ そこ2
- 37 「イキハリマスヨ 「ソノト」キニ 「ア」ノトラオモ」ーテキハ」ンノ 「ササニ」  
ツイタ 虎0、笹9
- 38 トラアリマス」デショハリコノトラ 「ア」レ ミ」ナ 虎00、皆1
- 39 「ムコ」デウケテ「キハリマス イマ「デ」モ 向こう1
- 40 ヤッパ」リ「ソ」レアリマス」デ「ショ、「コノ ハリコ チッサ」イトラ「ネ 虎0
- 41 「ソレ」ツケテアル「ササ」ネ（あれはそういうあれですか） それ0、笹0
- 42 「ソー」 デシテン ソー」 デシテン
- 43 キレーニ「シテ」アリマシタ「デ、イマ「ドショ」ーマチ<道修町>ナ「ン」カ

- 44 アーキレーニシテ「ハ」ッテ ソノジブン「ホイデソコワ、マ」ー アノソノ  
そこ0
- 45 シンノーサン「ユー アノ「カ」ミサンワ マタ ベツニ「ソノドショ」ーマチノ
- 46 マンナカ「ニ」アリマシテ ソコイ「ミ」ナマイッテデスネン そこ0、皆1
- 47 「ウチノ」ホーワ チョ」ットチガイマシ」タカラ「ネ、チョ「ー」ナイワ ソンナ  
イ マ」タ 家9
- 48 「チガイマシ」タケド「ネ、アノー オクスリヤサン「ワ」ナカ「ナ」カ
- 49 リッパニ「シタハリマシ」タワ (オワタリというのはどういう事?)
- 50 オワタリワ「ネ」ー、ソ「コ」ノ「ウジガミサンノ「ネ、アノー 「マ、ワタシラー  
アノ ところ2
- 51 「ナンバジ」ンジャイー」マシテ ネ アノーイマー「マ」ーマダ「ノコッテマス  
ケ」ド 今\*0
- 52 ミドー「ス」ジニ ナンバジ」ンジャユーノ」ガ「ノコッテマスケ」ド
- 53 「ソノ」オマツリノ「ヒ」ー「ガ、アノー「ニ」ジュー ハ「ツカ ニ」ジュー 日1
- 54 イ「チ」トアリマス」ネン「ナ、「ヒチ」ガツノソート ソノ ヨ「ミ」ヤノ ー2
- 55 ヒ」ー「ニ、アノ「ホンマツリノヒ」ーカ アノ「アレオ「ネ、 日11、あれ0
- 56 チョ「ー」ナイカラ ミ」ナ「ネ、オチゴ「サン」モ ダシ「マス」シ ソシテ アノ  
マー 皆1
- 57 オウチ「ノ」 オカタ「ガ、オヤクアノーオ「セ」ワ「シタハル」オカ「タ」ヤラ
- 58 「ジュンバンニ」マ」タ「デハル」オウ「チ」モアリマスチャント 「イ」ミ「タ」ダ  
シテ
- 59 ソラ モ」ンツキ「ハカ」マデ「ネ、ソレ ツイテ「イキハリマス」ネ ホンデ「ソ  
ノ
- 60 カ」ミサン「ガ、アノ コ」シニ「ノ」ッテ「ソシテ、アノアノー 興\*1
- 61 「ナン」チューネン「ナ」ー アノ「ム」コノ エー 向こう1
- 62 オタ「ビ」ショユー」ノガアリマシテ ソ「コ」「エ アノ「イカレマス」ネン  
そこ2
- 63 「ソノ ギョーレッツオ、ソノーオミヤサンカラ ズーッ「ト、
- 64 「ギョーレッツシ」テ「イキハリマス ホテ チョ「ー」ナイニ「ヨ」ッたら
- 65 オチゴ「サン」ダシハル「ト」コモアレ」バ「ソーユ」ーナコ」トデマタ「イ」ッ  
ショー「ケ」ンメー
- 66 「イ」ッショー「ケ」ンメー「ミ」タモ」ンデス「ユ」ーチョーナ「モ」ン「デ」シテ  
(そういうのが今は全然なくなってますね)
- 67 アリマセ「ン アリマセ「ン モー ゼン「ゼン、「ソーデシ」テン マー

- 68 ソ「レ」ゾレノ「ネ、アノーオミヤサン「ノ、「ソノ」オワタ「リ」ワアルソ「レ」ゾ  
レデッ「セ、
- 69 アル「ト」コモナイ「ト」コモアリマシ「タヤヨッテニ「ネ（やはり船場） 所1
- 70 マーヤッ「パ」シアタ「シ」ラー「ソーユーコ」トヤッパ「ナツカ」シ「ナ」ト  
事1  
今\*0
- 71 「オ」モテ イマ「デ」モ「オモテマス」ケド「ネ、
- 72 「モー オソ」ラクワタシガ「シマイ」デ「ショ（そうでしょうね）
- 73 「モ」ーアノ ワタシヨ「リ」オワ「カ」イカ「タデワ モー
- 74 「ソレワゴゾ」ンジナ「イ」ト「オモイマス」ワくそうですか>
- 75 モー「ウ」チラノ「コドモ」タチ「カ」テ アノ ソレ「オボエテ」ワイマ「スヨ
- 76 ワレアレノコト「オボエテ」マスケドモ「ーイマ ゼーン「ゼン、 事1、今\*0
- 77 カ「ー」ッタセーカツデス ヨ「ッテニ「ネ（……道修町ですね）
- 78 ワ「タシワ」アノ ナ「キューホージマ」チ  
（ど真中ですね 生まれは大阪市……）
- 79 ワタシガ「ウマ」レタト「コワ「オーサカ」シ ヒガ「シ」ク  
（東区、今の中央区ですね）
- 80 イ「マ」 チュー「オー」ク「ニナッテマス「ネ」ー、「ミナミキューホージマ」チ  
デ」シテ 今8
- 81 ハ「イ「ンマ」レタト」コワソコ「デス」ノデ そこ0
- 82 アノー モー「ミンナ、ワタシノ セ」キ コ」セキカラ 籍1
- 83 「ミ」ナ「デテイキマシ」テ ワタシガ「ヒト」リ「ノコッテマス」ノン「デ、「ホ  
デ、
- 84 「イマダニ、アノ ソノ」ヒガ「シ」クニ アノ「コセ」キガアリマ「ス」ネン  
「ホ」ナ
- 85 「ム」コーカラ、ヒガ「シ」ク「ワ、チュー「オ」ークニナリ「マシ」タト「ユー、  
ツーチガ
- 86 「キマ」シタンデー「コレ」ナニ「ユーテキハ」ッタンカ「ナ」ート「オモイマ  
シ」テン、
- 87 「ホ」ンナラ ソ「ー」カ ワタシ「ガ」マダ「ヒト」リ「ムコ」ニ「ノコッテル」カ  
ラ 向こう2
- 88 チュー「オー」クヤナト（なるほどね）アノ 「セ」キ「ホ」ンセキ「ワ、マ」タ  
籍1
- 89 ソノママ「オイテマス」ネン エ「ー（何年生まれですか）
- 90 ワタ「シ、「メージョ」ンジュー「ヨネン

(明治の生まれですか……大正かと思いました)

- 91 モー「メージノシマイモンデス (船場ではいくつぐらいまで)
- 92 ワタ「シ」ソコニ、「オリマシ」テ「ケッコンシテカラ、アノ アー      そこ0
- 93 「ミナミキューホー」ジ「マチカラ」バクロ「マチワマー」ホ「ンチカク」デス  
ケ」ドモ
- 94 ソコ「カーリマシ」テ フツ、ソコデ「ヤケマシ」テン (そうですか)      そこ00
- 95 サ「ン」ガツノ「ニ」ジュー (戦争で)「ソ」ーソー (3月の23日)
- 96 サ「ン」ガツ「ジュ」ー「サ」ンニチ (13日ですか、大阪大空襲で)
- 97 アッ「アノト」キ スッ「カ」リ「ヤケマシ」タ (このあたり焼け野原ですか)  
・ 時1
- 98 「ソーデス」ガ ナ「ン」シカ アノ ソラ「トンデ」タ      空\*0
- 99 「ビ」ー「ニ」ジューク〈B29〉ガ、サカイ「ス」ジ〈堺筋〉エオチ「マ」シテ「ヒト」  
ツ
- 100 「オトサレマシ」テン「ニホンノ」ニ  
(飛行機が、へー、そんなことありましたか)
- 101 「オトサ」レテ「ネ、」ソレガ「チョー」ド「ネ、」キューホー「ジマチノ」トコラ  
ヘン」エ
- 102 オチテ「マス」ネン「ホイデ」ワタシト」ツカラ コー チョ」ット
- 103 ニチョーホド「ハナレテマス」ネエ「ラ」イ「ヒビキマシ」テネ」ー、
- 104 「ソノト」キニ モ」ー「デ」ンキモ マック「ラ、アッ「デ」ンキモ モー      時1
- 105 「ケーテシ」モテ「マックラガリノト」コデ「ドナイショードナイショー」ッテ  
「コドモト      所1
- 106 ユーテルト、ソノト」キワ「シュ」ジンワ アノ ケーボ「ー」ダンニ「ネ、      時1
- 107 「ソノジブン イカ」ナ「イカンコ」ト「デ、」ソノホ」ーエ      事1、方1
- 108 「ジキニイッテシマイマス」ノデ「オン」ナ「コドモ」バツ「カ」リデ
- 109 ドナイ「ショー、」ソ「ヤケドモートニ」カク ココ「アブノーナッテキ ホンナ  
ここ0
- 110 「ソノ」スジ「ノ、アノ モー「チョ」ット アノ 「ミナミノホ」ーニ      筋\*0、方1
- 111 「イテハ」ッタオカタ「ガ、」ウ「チスッ「カ」リ「ヤケマシ」テー      家1
- 112 「ユ」ーテ「キハリマシ」テ「ネ、ゴ」リョンサンコレ「チョ」ット
- 113 「アズカットイトクレヤ」ス「ユ」ーテ「モ」ノモッテキハ」ッタ      物1
- 114 オカ「タ」ガアリマシ」テ「イ」ヤ「ケ」ドネ「ソンナアズ」カッ「テモ、
- 115 ワタシ「ト」コモ コレ「ワカ」レヘン「ヨ」ッテニ「ソンナ イワ」ハント      所1
- 116 「ユーテルマニ、モー ナン」ヤ モー「ジ」ット「シテラ」レシマヘンヨ」ッテ



ニ

- 117 ト「モ」カクモー「コドモ チ」ッサイノワ セオ」ーテ「コドモツ」レテ ト  
「ニ」カク
- 118 チ「カ」クニガッコ「ー」ワタシガ「マ」ー「ソノ」ガッコー「コド」モモ
- 119 「イッテマシ」タガッコーデ キューホー「ユー」ガッコー「ガ」アリマ」シテ  
「ナ、
- 120 ソ「コ」エ ニゲコミ「マ」シタンデスワ デソ「コ」ノ チ「カ」イマ コッ「カ」ラ  
そこ22
- 121 「アンゼン」ヤ「カ」ラ「ユウハ」ッタンデ、ケーボ「ー」ダンノヒ」トガ 「ミ」ナ  
人1、皆1
- 122 「ソレ セ」ワ「シ」テ、ソコ「デ」 シ「バ」ラク「イテ」タンデスケ」ド マー  
世話1、そこ0
- 123 ム「カ」イニ ヨー「チ」エンガアリマ」シテソ「コ」エド」ーヤラ そこ2
- 124 ヒガ「ウ」ツッタト「ユーヨ」ーナ「コ」トデネ コ「コ」モ「キケン」  
火\*0、ここ2
- 125 ヤ「カ」ラ、「ワタシ」タチガ「ユードーシマス」ノ「デ、「ド」ーゾ「キテクダ」サ  
イユ」ーテ
- 126 「ユーテクレハ」ッテ「ソノヒトニ」ツイ「テ、ヤッ「パ」シ「ソレソレ 人0
- 127 「ニ」モツモツテ「マス」ワ ホイデ「ボークー」ボー「ズ」キン「カブ」ッテ ホ  
ンデ
- 128 アノ「ソノ ヒガ」シエ「ヒガ」シエト「イ」ッタ」ンデス」ノ「ヒガ」シエイ」ッ  
テ
- 129 「ホーシ」タラ マー「ソノ ヨコボリ」ガワノ「トコラヘン」モモー
- 130 「マッ」クラガリデネ」ー「ホンデソノ ハマズタ」イニ ズーット「イ」ッテ、  
「ア」ンサン
- 131 ゴゾ」ンジナイカ「シランケ」ド 「イ「マ」ノ「アノ ヒガ」シノ ク「ヤ」ク」ショ  
ガ 今2
- 132 「ソノ ジブンハ」マニアリマ」シテ「ネ、ココ「ガ イチバン」マ 浜1、ここ0
- 133 「アンゼン」ヤ「カ」ラ ト「モ」カク コ「コ」エ ハイッテ「クダ」サイユーテ  
ここ2
- 134 「ホンデ」、アノ「イッショニイ」ッタヒ」ト「ミ」ナ 人1、皆1
- 135 ソ「コ」エハイリマ」シタ、ヒ「ト」バン「アカシマシ」タ アサ モー  
そこ0、朝\*2
- 136 ア「メ」ガフッテ「ソレガ「ク」ロイ「ク」ロイアメ（焼けた煤の） 雨2\*0

- 137 「ヤ」ケタ「ソーデス」ネヤロ「ナ」ー モ「ソラネ」ーコナイシ」テネ  
 138 「ズ」キン「カブッテマシ」タカテ「ネ、ソ「コ」エ ポッ「ポ」トアナ そこ0、穴0  
 139 「ア」イタリ「シテマシ」タモノ マ「ダ」ワタシワ「ソノシタイ<死体>ナン」カ  
 140 ワタ「シ」ラー「ミマセンデシ」タ「デ、ソ」ヤケド ミドー「ス」ジ ノホー」エ  
 「ネ、  
 141 ミ「エ」タヒ」ト「ワ、「ソコラ」デワ、「シタイガコロガッテマシ」テン  
 (たくさんの人が)  
 142 「ソーデス」ネン ホンデ マー「ソノト」キノク」ローオ」モータラ 時1  
 143 モー「ホンマニ アー」トオモイマス」ワ (皆さんは無事で)  
 144 アッ「ホンデ マ」ー「「ブジデ」ト「モ」カク「ネ、ダー「ソナイユーテル
- 無事9
- 145 「シュ」ジンニ」ワ モー ベツベツデ「ショー (それは心配でしたでしょう)  
 146 「ソ」ヤカラ シュ」ジンガ「ネ、「シュ」ジンワ マ」ー「イテルト」コワ「ソノ  
マ」ー 所1  
 147 マアノ ミン「ナ」ノ 「タ」メニモ ハタライテマスノ」デショ」ーケド 為1  
 (警防団のね)  
 148 「ソーショ」ッテ「ジブンノカラダー」、ド「ー」モナイト「オモイマス」ケド「ナ  
 カナカ  
 149 「アワ」レシ「マセンデシ」テ「ネ、「ホンデ」ヨー「ヤ」クソ「コ「デ」ヒトバン  
 「ア」カシテ 所1  
 150 「ソ」ヤカラ アノ「ミ」ナサン コチ「ラ」エ「キテクダサ」イユーテ「ドコエ  
 どこ0  
 151 イッテヨシテモ」ータンカナ「ン」カ「ヒト」ツノト」コエ「ヨセテモ」ラッテ  
 ネ、  
 152 「ソコ「デ」アノ「チョ」ット「ショク」ジ アノ カンパ「ン」ヤラ ナン」ヤラ  
 所1  
 153 アン」ナオ「イタダキマシ」タ 「ソ「コ」イ「シュ」ジンガキマ」シテ「ネ、マー  
 所1  
 154 「ミ」ナブジ」ヤッタ「カー」ユート」コデ、「ソナイユーテ」テ「ジブンモ  
 皆1、無事2、所1  
 155 「ミ」ナト「イッショニナン」ノヤ「ノ」ーテ<なるのでなく>「マ」タ「ソノホ」ー  
エ 皆2、方1  
 156 マ」タ「イキマシ」テ「ネ、「ホンデ ホ」ナモ」ー ト「モ」カクモー「オーサ  
 カ」ー「ネ、

- 157 アム「ナイ」ヨ「ッテニ モー ミ「ン」ナ 「ヤケテル、「ヤケテル」ト「オモーカーラ、
- 158 ト「モ」カクアノー 「イナカノ」ホーエ「イコ」ーカト アノ 方0
- 159 アシ「モ」ト 「ソノホ」ーエ「イクユー」ノン「デ、「ホンデ ウ」チ アノー 方1、家1
- 160 「ハ」ハノ「ホー」ノ「ネ、「イト」コガ「オリマシ」タンガ「ネ、アノー 母1、方1
- 161 「ナ」ラノ カシケル 「ゴイ」ドー<五井堂>ユート「コガ (ございますね) 奈良1、所1
- 162 アリ「マ」シテ「ネ、ソ「コ」エ「ネ、ダ」カラ ア「レニ「ノ」ッテ そこ2
- 163 マー「イ」ッタンデスケド 「ソレデ マ」ー チョ「ット ニネン
- 164 サンネン「ホ」ド「ネ、ソコイ「ヤ」ッカイナッテマシ」テン マー そこ0
- 165 「イ」エイッケンア「ケテモ」ラッテ、マ」ー アノ ソコデ スンデテワ 家1
- 166 「オリマ」シタンデスケ「ド「ネ、ンナ コ「ン」ドワ モ」ー ワタシ「ワ」トモ」カク
- 167 「オーサカエカエリタ」イ 「カエリタ」イ 「オ」モタンデ」スケド 「ナカナカ
- 168 カエラ」レ「シマセ」ンデ 「ホンデ ア」ンタ 「コンナト」コーオ「ネ、チョ」ット マー マー
- 169 アノチッサ」イ「ト」コヤ「ケ」ドモ「ホ」ナンヤッター マー「カイマヒョカユ」ーテコ「コ」ー「テ<買って> 所1、ここ0
- 170 「キ」タヨ」ーナ 「ソレガ」ワタシ「イツイテシマイマシ」テ コツカラ
- 171 「ミ」ナ 「ムス」メタチモ 「ミ」ナ カタズケテシ」モータ、 皆11
- 172 「ヒト」リ 「ノコリマシ」テ ソノウチ 「シュ」ジンワ 「ナクナル、
- 173 「ハ」ハモ 「ナクナル (ご主人様はお幾つで) 母1  
「ゴジュー (若くて病気かなんか?)
- 174 ゴ「ジュ」ーニ 「ノーシュ」ッケツ (働き盛りに)
- 175 マ」ー「ソ」ーデス「ナ、マー 「ソノジブンワ」、ヤッ「パ」シ 「カラダノジョーケ」ンモ ワ「ル」カッタンデショ」ー ナンショ 「ニ」ジュー「クネンデスヨ」ッテン  
(昭和、私の生まれた時ぐらいです)
- 176 「アーソ」ーデスカー (私は28年です)
- 177 「アーソーデ」スカー ヘー「ソ」ヤカラ マダ「ヨノ」ナカオチツイテ「マセンデ」シタ「デー、
- 178 「ソノジブ」ンワ (戦後の復興期ですからね)

- 179 ソーデン」ネン、モー「ソ」ヤカラ「ネ」ー「ダイブン ホンマニ  
 180 マー「ク」ローワ「イタシマシ」タ  
 (丁度その真下にいらっしゃったんですね)  
 181 「ソーデン」ネン エ「ホ」ナ「ウ」チノ アノ「イチバンウエノムス」メガ  
 家1  
 182 アノ ナニカ「ラ」ヨミウリカラ「ネ」アノ「コラ」レタカ「タニ」ネ、何\*0  
 183 「ソノトキノハナ」シオシテ「ネ、シンブン「デテマシ」タワ アノ ナニ「ニ  
 アノ 時0、何\*0  
 184 「ム」コエ「ビ」ーニ「ジュークガ オ「チ」タ「ユーハナ」シオシテ 向こう1  
 185 シ「タラシ」ーデス ソレガ「デ」テマシタデスケド  
 (船場にもセンタービルなどができて昔の面影はなくなりましたね)  
 186 「ソーデス マー アノ ナン「デ」ッセ アノ「ドショーマチアタリ」ワ ア  
 ノー  
 187 マ「ダ」ノ「コッタオウチガ、「ネ」ー「ムカシフーノ」ナニガ ワリト アル」  
 ト 何\*0  
 188 「オモイマスケ」ド「ネ、モー オソ」ラク ワタシ「ト」コラ「ユーテルト」コ  
 「ワ、 所1  
 189 モー「ゼ」ンブ「ヤケマシ」タカラ スッ「カ」リ「カワッテマス (真中はね)  
 190 ホンデモ ガッ「コ」モネ チカク「ニ「チョ」ット ニチョ「ホ」ドノ「トコニ  
 所\*0  
 191 「キューホーショーガ」ッコーユーンガ アッ「タ」ンデスケ」ド モー ハ  
 「ヨ」ーニ  
 192 モー「トラレテマス」ネン「ソ」ヤモ「モットモ コドモ」モ「スクナ」イデス  
 ヤロ  
 193 「ソイデスヨ」ッテニ「ネ、モー「ウ」チラノ「コドモガ「イチド ジブンカラ、  
 アノ  
 194 コドモガスクナ」テ ヨー「チ」エンデモ ハヨ「ー」ニ「オコ」シテクレ  
 195 「オコ」シテクレ、「ユワレル、「カンユーシテハ」ッタグライデシ」タカラ  
 「ナ」ッ  
 196 「ダ」カーモー「ヤ」ケタラ「ナオノコ」ト「モドッタハル」オカタ」モ マー  
 「マ」ー  
 197 「スクナ」イデスヨッテニ「ネ、モ スッ「カ」リ セ」ヤカラ「カワッテマス  
 (時代の移り変わりで…)  
 198 「ソーデス「ソーデス (大阪らしさが残ってないですね)

- 199 ソーソ ソーヤカラ ドッチ「ム」イテイ」ッテモ「ネ、ムカ「シ」ノ「オモカゲ  
 200 チョット」モアリマセン「モ」ノ「ネ」ー（昔は川がたくさんありましたね）  
 201 ソー「ゼンゼン」アリマセンモ」ノ  
 （川にかかっている橋の名前が面白かったですね）  
 202 ソー「ソ」ーソ」ー「ハッピークヤ」ハシ「ユ」ーテンモノ  
 （今は鉄筋の橋に代わって）  
 203 ソー「ホンマニ」ワ「ズ」カニ ワタシ「ホ」ットデルト アレ  
 204 「エビス」バシヤナ「ソノグライデ」ッセ モー アンドサン「ソノツ」ギニ  
 次1  
 205 「サンキュー」バシガア「リ「ナガホリ」ガアリ モー「ユ」ーテモ モー ズッ  
 ト アノ  
 206 「ミチズ」ット、ハ」シガアッ「タ、ナーン「ニ」モアレ「シマヘン 道0、橋1  
 207 ホンデ「シタワ、モー アンナシテ アノー 下0  
 208 チュー「シャ」ジョーミタイナコ」トニナッテマ「ス」シ「ネ」ー、「ホンマニ  
 ハ」ー 事1  
 209 「コンダケ サマ カワッテシマイマシ」タラ モー「サッパ」リデス」ワ 様0  
 （そうですね 変わりましたね）  
 210 「ソラネ、「ミ」ナサンアノ「エンポーニイテハル「ワタシノマ」ーオト」モダ  
 チ、マ」ー  
 211 ヨー「チ」エンカラ「ショーガ」ッコカラ ミ」ナ「イッショノヒ」トオ「ネ、  
 皆1、人1  
 212 アノ「チョ」ットアノ チ「サ」イカイデ「ス」ケド「シテ」タンデス「ポ」ツリ  
 213 「ポ」ツリト モー「ナクナッテイキマス「サビ」シーデ」スワ（それはずっと）  
 214 エッ アノミ」ナ「イチオーネ（おさな馴染みで）  
 215 エッ「ソーデス」ネン ダ」カ ソオンナ「シ」ヨーチ」エンニ ワタ「シ」イマ  
 今\*0  
 216 「ユーテマシ」タ ヤ」ケタヨーチ」エン「ニ、カヨテ」タ「レンジューデス」ネ  
 217 「ソラ マ」ー アノーワタシ「ワ」マ」ー「カタズ」イタ ニンゲント「チガウ  
 カ」ラ  
 218 マ」ー「オリマシ」タケド「カタズキハ」ッタ ミ」ナ 皆1  
 219 ホーボ」ー「イッテデッシャ」ロ、「ソ」ヤカラ イマ」 モー アノ「オーサカニ  
 今2  
 220 ソノマ「ジュ」ーニンデ マ「シテ」タンデスケドネ「ソノウチノ」マ 家0  
 221 アノーワタシト「モ ヒト」リワ アノ ナニ「ニ、エー 何\*0

- 222 「ハンナン」チャーニイマ「ヒト」リ「イテハリマス」 今\*0
- 223 「ソイカラ、モーヒト」リワ「ジュ」ー マー イマ「ジュ」ーケンマチ イエヘンワ 今\*0
- 224 「ミナミセ」ンバ ソコ「デ」、オショーバイ「シテハ」ッタオカタ「ト」 そこ0
- 225 サン「ニ」ンニナリマシ」テ「オーサカニ」スンデ アトワ「ミ」ナ アノ 後\*0、皆1
- 226 「マキオチニオラレル」トカ「ヒメジノホ」ーイ「イッテハルヒ」トモア「レ」バ 方1、人1
- 227 「ソレカラ ニシノミヤニイテハル、ソンナ」ンデ（ちりぢり）ミ」ナ 皆1
- 228 チ「リ」ジリンナリマシ」タノ ホンデ マー ワ「ズ」カニノコ」ッテタ「オーサカノ」
- 229 サン「ニ」ンノウチノ「ヒト」リガ「コトシノ」テンジン「マ」ツリニ「ナクナリマシ」テ「ネ、
- 230 ホンデモー「ホナイモ」ガ「クー」ントシテマス」ネン  
（他の方達とは電話などで連絡してますか）
- 231 モー ホンデアノ ソラ ヨ」ー リョコ「ー」モ「シマ」シタシ「ソシテ、
- 232 アノ モー カナ「ラ」ズ マー「シュンジュー「ニ」ワ オー\*\*
- 233 オーテ「マシ」タンデス」ワ デ「ソレガ ネ」ー モー「ヒト」リ ナクナ」リ
- 234 「ヒト」リワ「ニューインシテハ」ッテ モー「チョットコノ コー
- 235 ナオッテクレハル」カ「ド」ーカ「ナ、オ「フ」ロデ、「タオ」レタ「ママデ
- 236 ハイッテ「ハルヒ」トモアリマス「ノ」ンデ「ネ、ホンデモ 人1
- 237 「ソノヒ」トノコ」ト マタ「キニ」ナ「ル」シ「ホンナ」ラ モ「ダイブニ アノ 人1、事1、気9
- 238 マーサン「カ」ゲツモ ヨン「カ」ゲツモ「ゼン」ゼン「キーツカ」ント「イテ」テ 気0
- 239 ンデ「キ」ケバ イ「マ」モ ド」ー「ヤ」ラ「クルマ」イスデ「ネ、「ノッタハル」トユー
- 240 コ」トデ「ソレ」ヤッ「タ」ラ モー「チョ」ット「ワカルラシ」ー ナン 事1
- 241 コ「コ」モ「アケ」テアリマス」ネン「デ、コ「コ」モア」ケテ コーシ」テ ここ22
- 242 コッカ「ラ ショ」クジオ「トー」シテ「ソンナジョータインナッタハン」ノニ
- 243 「コナイシ」タラ「チョ」ットコエ」モ デル「ヨ」ーニナッタ「チョ」ット 声2
- 244 「ワカッテキ」タミ」タイヤ「ユウ」レタンデ ホナ「チョ」ット
- 245 「イッペン チョ」ット「カオミニイコユ」ー「テ、 顔0
- 246 マチョ」ット「ヤクソクデ」ケタ「ト」コデン」ネン イ「マ

- 247 エッ「ソーデン」ネン セ」ヤケド キセ「キ」ヤ「ユータハル  
(直ったことが……)
- 248 「ソ」ーデショー「ネ」ー「ロ」クヒ」チ ハ」チクー」ト
- 249 「ワ」カレヘンカッテ」ンモ」ン「ネ」タキリ」ヤッテ」ンモ」ン  
(暫く意識のない状態が続くと……)
- 250 「ソンナ」ンソンナ」ン「ソノト」キニ「アタ」マ「ドナイ」カ「シハ」ッタンカ」  
ト「アタ」マ「ゼンゼン
- 251 アケタラハ」リヤ「シマセン」ネン「テ、」デキナ」カッタンカナン」カ「シリマ  
センケ」ド
- 252 ヤッパ」リ マナ ワタ「シ」マー アノ ツキ「カ」ワッタラ「イッペンナ」ー  
月0
- 253 アレ「イキマヒョ」ー「ナ」ーユーテ マ ミ」ナト
- 254 「ヤクソクシテマス」ネンケ」ド「ネ」ー ナ「ン」ヤ モー「ソーシ」タ オ「ト」  
モダチノ
- 255 コ」ト「キ」ーテモ ココロボソ「ー」ナッテ「ヒ」ーテワジブンモ「フク」メテ
- 256 ココロボソ「ー」ナッテ「キマス」ネンダン「ダ」ン  
(でも今はお元気でいらっしゃるから)
- 257 エー マー マー オカゲデ「ネ」ー ヨ」ー「コナイダウチカラ」モ
- 258 「チョ」ット「ムス」メガ オ「カ」ーチャン「イッペンウ」チー「アソビニ」オ  
イデ」ーナ
- 259 「ユ」ーテ マー「ワ」ザ「ワ」ザ「ムカエニキテク」レタカラ マ」ー チョ」ッ  
ト
- 260 「ヨシテモ」ロテ ニ「サ」ンニチ マ」ー「トメテモーテキタ」ーリ「マ」シテ  
(どちらへ嫁がれて)
- 261 アノ「イバラキノホ」ーエ「ナ(茨木ですか)
- 262 ハイ「イバラキユ」ータラ マダ「ネ」ー「ユーテ」モ マダ「チ」カイデス  
ヨ」ッテニ
- 263 エー「マ」ーマ」ー「ネ、ナ「ン」ヤ「カ」ヤラト「シンパイセンデ」モエー」テワ  
「ユーテワ
- 264 クレマスケ」ドモアー「ソ」ヤケド ヤッ「パ」リ アノ「ヒト」リデ「オリマス  
ト
- 265 「キラ」クワ「キラ」クデッ「セ、」キラ」クワ キラ」クデッケド「ネ、ホタ
- 266 ヤッ「パ」リ「ネ、イ「ロ」イロトアリマ」ス ココ」ロ「ボ」ソイト」コモ 所1
- 267 「デ」キテサンジマ」ス ネー「オモシロ」イ デ「ス」ワ モー モー

268 「ソナイユーテルマニ」 モー「コレ」モ ナンドキ」ヤ「ワカ」ラヘンナー

269 ホンデネ「オカシ」ーデスヨ、モ」ー アノ カナ「ラ」ズ ソノ アノ

270 オ「ト」モダチガ マー「デンワ」モ「クレハリマス」シ ア」ンタ

271 「ドナイシテルーユ」ーテ ホンナ マ「シャベラ」ンデモエ「ー」ノニ モー

272 ヨ「ル」ヤッタ」ラ ナガーイ「コ」ト「デンワノハナ」シオ「シ」タリ「シテ、

夜2

273 マー「ソンナシテ」マー「クラシトリマス リョーホーカラ ナグサメアイ  
シ」テ

(私もあちこち行きますけど、100歳の元気な人もいらっしゃいます)

274 アー「ソーユー」オカタント」コモ「イカレマス」ノ

(行きます。最高105歳がありました)

275 ホー (子供が80で息子の方が先に死んだりします) ソ」ーデショー「ネ」ー

276 「ソー」ナッテキマス「ナ」ー (自分は長生きしたいけども) オンナジ「ヨ」ニ

「イッテクレハ」ッ タラ ヨロシ」ーケ」ドモ

277 アー「ソー」デスカ「ソーシ」タ「ギャク」モ

逆2

(ついこないだも名前が百助という人でその人と話してまして、いくつか聞いた  
たら99だとのことでして)

278 アッ キュ」ージュー「キュ」ー

(今から2年ほど前でした。百助という名前で、その翌年なくなりました。100で)

279 アー「ソ」ーデスカ「ヒャ」クデ「ナマエノ」トーリニ

百2

(名前の通りに100まで生きました。でも今は80代の方は珍しくありません。田  
舎では皆さん農作業をしてらっしゃいます)

280 マー「ソーシ」タコト「ナサルダケ、ヤッパ オ「ゲ」ンキナンデス」ネンケド  
「ナ」ー

281 「ソンドケニ「ネ」、ヤッ「パ」リ「トッショ」リガ「オーナッテキ」タ マー イ  
マ」ノ

今2

282 「ワ」カイヒ」ト「エ」ライフタン」ヤ「ユ」ーテ モー「ヤ」イヤイ

283 「ユーテハリマス」ガナソ」ヤカラ「ホンナコ」トヤッパ「ヤシナワンナラン」  
ネユーテ

(これからは年より人口が増えて若年人口が減りますから、これからはやはり)

284 ワタシ「ネ、ジブ「ン」ヨリオワ「カ」イカ」タミ」ター アッ エー「ナ」ー「コノ  
カ」タラワ

285 マ」ダ「コンナ」オトシ」ヤ エー「ナ、ウラヤマ「シ」ク「オモイマス、ホンマニ  
ソナ



- 286 マー「アナ」ガチ「ナ、ト」シガ「イ」ッタモン「サ」キ「ユーコ」トモ 年1、先1  
 287 「コレワカ」ラ「ヘン」ネユー「テ」「ソナイ オモワンデ」モ「ヨロ」シテ「ユワレ  
 マスケ」ド  
 288 ヤッ「パ」リヤッ「パ」リ「ウ」チノハハ「ヤナ」イカ 家1、母2  
 289 「ヒ」バシワ「サキカラヤユ」テ ヨー「ユーテマシ」タ ムカシ「ネ、 先0  
 290 マ「ソーユーコト」バ ヨー「ユーテマシ」タ  
 (ものには順番があるということですね)  
 291 「ソーデス」ネン ワタシノ「ハ」ハモ「ワリト ナガイ」キ「デシ」タンデ「ネ、  
 母1  
 292 「キュ」ージュー「ヨ」ンマデイキテマシタ (長生きですね)  
 293 モー「アタ」マモ「ネ」ー、シャント「シテマシ」タシ「ネ、シマスヨ」ッテ マー  
 294 オ「カ」ーチャン「ダイジョ」ーブヤ オ「バ」ーチャンノ「ト」シマデ、 年1  
 295 「イケルイケル」ッテ マー「コドモ」タチ「ヒヤカシマス」ネンケド  
 (家系もあるみたいですね)  
 296 アー「ソ」ーデスカー ンナ「ウ」チワ「ネー「オト」コガ 家1  
 297 「サ」キニ「イク」カケー「デス」ワ 先1  
 (だいたい男性よりも女性の方が長生きですね、日本女性の平均寿命は世界一)  
 298 「へ」ーキン「ハチ」ジュー  
 (若くてなくなった人も入れての平均寿命ですから)  
 299 ソヤタイ「テ」ーヤナイ「ワ」 モー「コンダケノ モ」ー「ミン」ナ  
 300 「ヤシノ」テ「イッテクレハルンデ(まとめたらこちらへ送らせて戴きます)  
 301 ア「リ」ガトー「ゴザイマス  
 302 マー セーケド「コーユーコ」トモ タイ「テ」ーヤ「オヘンナ」ー「エ」ーホ  
 ンマニ  
 (今「タイテーオヘン」とおっしゃいましたけどそれは)  
 303 「オーサカ」ベンヤナイ「ンデスヨ」「コレワキョ」ートノホーヤ 方1  
 304 「オヘン」ト「ユーコ」ト、ワタ「シ」モイツノ「マニ」カ ゴッチャ「ニ」ナットリ  
 マ「ス  
 (京都に住まわれたことは)  
 305 ナッタ「コ」トワ ナ「イ」ンデス (船場言葉ではないですか)  
 306 「セ」ヤロカ「ナ」ー (船場言葉ではないですか)  
 307 「センバ」ジャ ヤッパ「オマヘンユ」ーコ「トワアリマスケド「ネ」ー  
 (女の人オヘンではないですか)  
 308 「オヘン」マー「ソレモ ジャマクソーナ」ッテ モー「ソナイ」ーナッタン

カモ「シレマセン ネ

309 「ソラ」ヤッ「パ」シネー「ショーショーワ、アノ ナンデ「ス」ワ

310 「セ」ーケド ナカナカ「ジョ」ーズニ「ユーテハリマス」ヨ

(そうですか 船場をテーマにしたものがありましたね。今までに)

311 アリマシタ「ネ」ー「ウスレ」テ モー ダン「ダ」ン ソノ

312 「シ」ゴニナッ「テ、シマイマス (そうですね) 死語1

313 「モ」ー ワタ「シ」ラ「ネンパイノモ」ンガ「ナクナ」ッター モー「コイデ  
シマイデス」ワ

(本当ですね、昭和の初めに生まれた人も小さい頃の思い出として頭にあるだけで)

314 「ソ」ー「ソ」ー「ソ」ー「ソーユーコ」トデス

315 セーカツ「ノ」ナカ「ニ」ハイッテ「ナ」カッタ「ソノヒ」トワ ネットウーン  
中\*0、人1

316 ソーデス「ナ」ー ヤー モー「コノゴロノネンパイガ」モー モー

317 ダン「ダ」ンニ「ナクナリマス」ネヨッテ「ソラモー ワカランヨ」ニナリマ  
ス」ワ

318 アー「ヨ」ー オシラベ「ニ」ナッテル「ナ」ート「オモウク」ライヤモ」ノ  
「ネ」ー

319 オカシマ」ッシャロ ホカ「ニ」モ「コンナ キキハ」ッタ

320 「ヘ」ート モッサ」リシタコト」バデト「オモイハリマシ」タヤ「ロ

(そんなことはありません、周辺の大阪とはだいぶテンポが違うこともありますね)

321 イヤ ワタシガ「ホ」ット フ「ヨ」ーイ「ネ モ」ー ナン「ダケ イ「マ」ノ 今2

322 「コト」バ「ツカオ」ートオ」モテ「チョ」ット ミ」ナ「ヨッ」タト」キニワ 皆1

323 「ソーユーフ」ーニオッジブン「デ」ワ「オモテマス」ネン「ソレ」モ「ポ」ット  
デマス」ネン

324 ホト ミ」ナ「ワライハリマス」ネン アッ …サン デ」タデ」タッテ 皆1  
(船場言葉が出たということですか)

325 ソ」ヤケド「ソレガ オモシ」ロイユ」ーテ マタ「ユーテククレハルヒ」トモ  
人2

326 ア「レ」バ モー「オカシ」ーデスヨ ウーン「ネ」ー「マ」ーマー ソンナ

327 「バ」カミタイナコ」トイ「ーツツ、クラシテオリマス」ネン 馬鹿1

(船場の言葉を聞くのには兵庫県の方にも行かなければと思って見たりしてました)

- 328 「コノヘンニカ」テ「ネ、アノ アタシ「ネンパイグ」ライ モー「チョ」ット  
 329 「ウエノ」オカタ」ヤラ「ネ ヤッパ」シ アッチガ「ヤ」ケテ コッチ」ー 上0  
 330 「コラ」レタカ」タモオア「リ」ヤッタ」ンデス「ヨ、「ソ」ヤケド「ネ」ー  
 (その方達とも行き来されてましたか?)  
 331 モー モー アノ ア」ンサン ココニ「イテハリマシ」タンカ ユ」ーテ ここ0  
 332 「ム」コーデ オー「テ」タオカタワ「コノマチナカデ」オータ」リ「シマ」シタ  
 333 ソ」ヤケド モー「ゼンゼン、モーサイキンオメニ「カカリマセンヨ」ッテニ  
 セ」メテ  
 334 ソ「コ」ノ オウ「チ」ーデモ「ヨシテモートル」トカ そこ2  
 335 コ「コ」エキテモート」カヤッタラデン「ナ」ー「マ」タ「ワカリマス」ネンケ  
 ド ここ2  
 336 「ミチバタデ」オータ「ダケノハナシ」デシタンデ「ソ」ヤカラ モー  
 337 ゼン「ゼ」ン、モー イマモー オメニ「カカレン」ト「ユーコ」トワ 今\*0  
 338 「オラレナイ」ネン「ナー」ト、ワタ「シ」タ「イ」ガイ ヨ」ー ソ「ト」イ「デマ  
 ス」ネン 外2  
 339 ナン「デ」モ ヤッパ「カイモンデ」モ ナンデ」モ「デ」ナー  
 340 「ショーガオマヘンデッシャ」ロ ヨ」ー アルキマス「ケ」ドモ  
 341 オアイ「シ」タ「コ」トナイコ」ト「オ」モタラ「アノカタ」モ「オラレナイ」ネン  
 「ナ」ト 事1  
 342 「オモテマス「サビ」シーデス「ヨ、ソ」ヤケド、「ネ」ーナンカイ「マ」モコーシ  
 テ 今2  
 343 アノコ「コ」ラアノナンシタカ」テ「ホンマニ、アノ」ムカ「シ」ノ「アノト」コデ  
 344 オメニ「カ」カッタ オカタデ「ゼンゼン チガイマス」ネン ソヤケ  
 335 コンナコ」ト ヨーポツ「ン」ト「イッテマス ハハハナルダケ コ「コ」エ 所2  
 346 トケコマナ「イカントオ」モテマー「ソレワシテマス」ケド「ネ、ココ「ワ」ココ  
ノ」 ここ00  
 347 マタ「ヨサガアリマス」ネンヨッテニ エー「オカシ」ーデス「ナ「ホンマニ  
 良さ2

(ありがとうございました)

- 348 「ナツカシ」ーオハナシ「サセテイタダキマ」シテ (又ぜひ) アリガトー「ゴ  
 ザイマシ」タ

## Ⅲ. 大阪・河内弁（八尾市萱振）録音資料

〔録音状況〕 八尾市萱振に話者自宅に訪問し、話者とのやりとりを録音した。

〔日時〕 1990年11月29日

〔話者〕 橋本徳三郎（M45）

聞き手：岸江信介の言葉は（ ）内に記す。

〔内容説明〕 戦争末期、目と耳が良いという理由で加古川73部隊に配属、軍艦乗り込みの直前に豆の食べ過ぎで腹を壊して入院、そのとき便所で「痔」の出血がひどかったのが見つかり、「腸チブス」と思われて、「避病院」に隔離入院した。軍隊での伝染病はとても恐れられていたので、診断も良い加減で、看護婦や医者も伝染を怖がって、顕微鏡も丁寧に見なかったようだ。注射も薬もなく、重湯を飲んで箱の中にいるだけだった。しかし、入院2日で下痢は止まって家へ帰された。その間に船は出発、沈没で兵隊は全滅したらしかった。

（どうもありがとうございました、ここは八尾の萱振ですね）

01 「カ」ヤフリダ（お名前もう一度）ハシモ「ト」トクサ」ブロー

02 （徳三郎の徳は「道徳」の徳）ウン ソ」ーダ「トクガワノト」クダ 徳1

03 （失礼ですけど何年のお生まれ？）「メージョ」ンジュー「ゴネン

（明治生まれですか、60代ぐらいじゃないですか、お仕事は何か、会社か何か、農業）

04 ウン「ワテワ モー チッコ」イジブンカラ ノ「ー」ギョーヤ」ッテ「ナ

05 （よくご存じですな）ホンデ マ」ー（あまり学校のね）

06 ウン「ニ」ジューゴ「ロ」クノジブンカラ ボ」チボチト「ショ」ーバイヤリ  
マシ」テネ

07 （もうこちらでお生まれになって）「ソ」ーソーソー モー オ「ジ」ーサンノ  
「ジブンカ」ラ

08 ココ「デ」スンデマン」ネン（お父さんもこちらでたやろね）「ワテノオト」ー  
サンモ ここ0、私0

09 オ「ジ」ーサンモ（萱振で）ハー

（何か、戦争とか何年か行かれたことはありましたか）

10 ウン「ワテノ、オヤッサン「ワー、ナ「ニ」ヤ「ニチロセ」ンソーニ「イテマ」シ  
テンヤケド「ナ（そうですか）ハー デ「ワタシワ」マ」ー 私0、何2

11 「ミッカカヨッカ ホド イ」テ「エ」ライノ「ハ」ラトーッテ モッテキ」テ

- 腹1  
 12 「ハ」ラトーッテ (うん) マタ ナンデ 「ハ」ラトーッテ」ッテ 腹11  
 13 モー (南方の方へ行かれましたか) 「イ」ヤイ」ヤ 「ナンポー」マデ 「イ」カ  
 「シメヘン  
 14 アノー 「カコガワ」エハイリ「マシ」テン 「ナナ」ジューサンブ」タイ 「ソ」ヤ  
 15 「ナナ」ジューサンブ」タイ 「ゼンメツダン」ガナ  
 (最終的にどこへ行きました、73部隊は)  
 16 イヤー 「ソレガ イク、ド」ーチュ「ー」デ モー フネ「ガ、ア」ンタ 船\*0  
 (あっ、船が)  
 17 ハー フネ「デ、」ヤラレテモ」ーテ 船\*0  
 18 「カコガワ、」ナナ」ジューサン「ブ」タイ 「ボーク」ータイヤ  
 (これつまらないものですが)  
 19 「イ」ヤイヤ、「ソンナコ」トイラン  
 (加古川の73部隊は全滅でしか) 「ゼンメツダ  
 20 「ドーインク」ラッテ「ナ (玉砕みたいなもの) ウン 「ソノ、イチニチマ」エ  
 「ニ、 前1  
 21 「ワタシガ ソノ 「エ」ライノ 「ハ」ラー「ト」ーッテ「ナ」ー 「チョ」ット 腹1  
 22 チ ヨー「チ」ブスノケー「ガ」アルチューテ「ナ (日本で?) 気0  
 23 ハイ 「ニ」ホンデ モー カクリ「シヨリマシ」テンヤ 「マ」ー 「ヒト」リデ」モ  
 24 コンナモ」ンオッタ」ラ 「カンデンシタラ (ただの腹下りでしたんや)  
 25 ハラク「ダ」リダ デ ソ「コ」エ 「ジーノ」ケー「ー」アッタサ」カイニ  
 そこ2、痔9、気8  
 26 ソノ マー 「ベ」ンジョ ヒ「ビョ」ーインサイテ 「ニューインシ」テー モー  
 27 「フツカメ」ニ 「ピシャ」ット「ト」マッテ 「ナオッテモ」テン (ただの腹下り  
 でしたか)  
 28 アー ハラク「ダ」リダシテン 「ソ」ヤケド ソノ 「ジー」ノケー「ガアッタ  
 痔2、気0  
 29 サカイニ ド「ー」ット トールト チガ」オリマ」ンネン 血9  
 (それが丁度腸チブス)  
 30 「ソ」ーソーソー (結果、見た目が) マー 「ベ」ンジョ「シラ」ベタラ モー  
 31 チョー「チ」ブスミ」タイナノ 「ソラ モー、「ソノ 「ベ」ンオ「ナ、 便1  
 32 「ホラ」ケン「ビ」キョーデモ」ー 「ジューブ」ンニ ミ「リャ」ー 「ソンナキ」  
ンガ 菌1  
 33 オ「ラ」ンネンケ」ドモ ソ「ンナト」キワ ソンナ モ」ン ア「ラ」ヘンワ 時1

- 34 (73部隊のどこへ)「ドコ」ヤ「ワカ」ラシマセ」ン どころ1
- 35 (それは、どこへ行くのかも知らず)「ソ」ヤカラ モー「ナナ」ジューサン  
ブ」タイ マー
- 36 「ショーメツシタ」ハルノ「チガイマッカ、アノ「フ」チョーイテ
- 37 「ナナ」ジューサンブ」タイチュ」ータカテ「ソンナモ」ン アリマセ「ン」  
チューワ
- 38 (ほう、恐ろしい)「ソノママキエテモテ、
- 39 「ジェ」ンブア」リヤ「センシダン「ナ (全部あれは戦死だな)、セ「ンシマ」ー  
ミ「チデ、 道0
- 40 アレ フネデ「イカ」レ「タ」チューコ」トキーテマ」ンネンケド「ナ」ー ア「ト  
デ」ワ 船\*0、後\*0
- 41 フネ「デ、「ム」コイツ「ク」マ「デ」ニ モーフネン「ナカデ、モー「ギダイデ  
船\*0\*0、中\*0
- 42 モーダ「ー」ットミ「ン」ナ「ジェンメツニ」ナッテ」ンユーテマン「ナ」ー  
「ア」レワナー あれ1
- 43 「ナナ」ジューサンブ」タイユータラ「カコガワノボーク」ータイヤ ソ「ヤ」  
カラ モー
- 44 メー「ノ」エーモ」ント 「ミミノ」エーモ」ン「ダケ」トットリ「マン」ネン アレ  
目9、耳9
- 45 「セ」ヤカラ「ゼ」ンゴクカラ「ヨッテマン」ネン アレ フン「ソラ ヤオデ」  
モモー アレ
- 46 メノ「ケ」ンサンシ」ヨッテ「ワタシガ イチバン、メ「ー」モミ」ミモヨ」ー、  
目2、耳1
- 47 キコエマシ」テヤ モーココ「ラ」レーモ ヘータイニイ」タモー サンイチ  
「カ」ハチ「レ」ンタイヤ
- (それは昭和、20年か、そうすると終戦ですね)
- 48 「オ」ー シューシェン「マギ」ワダ「ソンデ ア」レ ワテ ビョーイン」ハイッ  
「テ、 私0
- 49 カクリ、「シテカラ、ヒ「ビョ」ーインサイテ「オクッテマ」オッテ エ」ライ
- 50 「ハコンナ」カエイ」レテ「オクリマン」ネン「デ、デ ヒ「ビョ」ーイン ハイッ  
テ 箱0、中1
- 51 ア」ンタ モー ナンヤ オモ「ユー、「サー」ットノマス」オッテ「タ」ラナ」ー
- 52 「ベ」ン「ピシャ」ット ト「マッテモ」テンヤナ「モ」ー 便1
- 53 「ス」カーット「ナオッテマイマ」シタヤン ク「ス」リチュータカ」テ ク「ス」

リモ ベツニ

- 54 ア「ラ」シメヘンガ「ナ、ナ ハー」「ホッタラカシダ」ンガナ
- 55 ヒ「ビョ」ーインハイッタカ「テ「モ」ー コ「ンナモ」ンワ ミ」ナ モー 皆1
- 56 ハヨ「シンデマ」エコンナ「モ」ンヤロ アレ「ウ」ン ソ「ヤカラ ク「ス」リ
- 57 「ヒト」ツモ ノ「マ」ント ソノカーリニ、マー サ「ン」ド オモユオ「ノマ」シ  
ヨリマ」イテン
- 58 ハー「ソレ イチンチ」ノンデ モー「「アクヒノヒ」ーニモッテ 日1
- 59 ピ「シャ」ーット「トマッテモーテンヤ（それが一つの生死の境目）
- 60 サ「カ」イメダ（またそれ何か）ソリヤ アコ「デ、アコ「デ」モー あこ09
- 61 「ハ」ラ「トーラナ」ンダラ「ソノママドーインセ」ンナラン 腹1
- 62 （一緒の船か何か途中で）ソーダ ソーダ イ「カ」レテモートル「ワケダ  
（すごいあれですな、そやけど、73部隊ですか、何人ぐらいで）ハー
- 63 ヤッ「パ」リ センゴ「ヒヤクニン「オリマン」ネン（全滅ですか）
- 64 アー「ゼンメツ」ヤ、「ソラ、ナー「アリヤー」ハイッタ」ラ「ナ」ー
- 65 ハイッタ「ヒ」ー「ワ、ソラ ケンガクサッシヨリマン」ネン「デ、イチニチ」  
ワ」ー ソラ 日1
- 66 「ボ」タンヒト「ツオイ」タラ ブア「ー」ット「ホーシン」、ナ「ン」ボ
- 67 「ジューゴ」ロクモン「デテキマンネンナ「アレ「ナ、「アレ「レンペ」ー  
ジョーデモ ホンマ
- 68 「ク」イウツ「タ」ンノン「カ」イ「ナ」ート「オモテマシ」テン「ハジメワハー  
コンダ」ケヨリ 杭1
- 69 デ「タ」ボー「ダ」ケーヤカラ「ナ、「ク」イワ ソ「レガア」ンタ ホ「ーシン」ヤナ  
棒0、杭1
- 70 「バー」ット「ボ」タン「オシ」ヨッタラ「ソレー、ビューット ナゴナッテ」ク  
ンノニ
- 71 「ソレワ、ソノー、アノー ヒ「コ」ーキメガ」ケテデス「カ
- 72 「ソ」ーダ ウツ「チ」ヨンネン「ソ」ヤケ「ド」モ ヤッ「パ」シ「ナ、モー「イチ  
バ」ン
- 73 タ「コ」ーテモ ナンヤ ゴセン「メーターグ」ライシ「カ「イカンラシ」ーワ
- 74 「ビ」ー「ニ」ジュークヤ ナンボ ウチヨッター「オ」トバーッカ「イッパイ  
音1
- 75 「ヒト」ツモ「アタ」ラシメ」ヘン ソ「コ」マデ「トド」カシマヘ」ンネヤ
- 76 「アンナジブンノ「ナ、「へ」ーキワ ハー（それでうまいこと放った）
- 77 ソーダ フン「ソ」ヤカ」ラ コレ「ハ」ラク」ラッタ」ンガ モー 腹1

- 78 ハラ「ト」ーッ「タ」ンガ モー「イ」ノチノ「サカイメダ」 腹1  
(そうですね、その豆食って消化不良みたいなもんだった)
- 79 ショーカ「フ」リョーダ アノ「マ」メデモ「ナ、ソラウマイコ」ト ユッ「ク」リ  
ト 豆1
- 80 モー ブツブツニ「タイタ」ルヤッチャタラ 「ハ」ラ「トー」ラシメヘ」ンデ 腹1
- 81 イット「マン」ネン アレ コチコチ「ダン」ガナ ハー「ア」ー
- 82 「コマ」コイ「マ」メマナイッ「テー、ソノー「メ」シト「イッショニタイトマン」  
ノヤ 豆1、飯1
- 83 「ソレガ ア」ンタ モー「コノグライノ、ソノ ショッキ「ニ、
- 84 イッ「パイハ」イッテマ」ンノヤ「ソレン、「ノ」コシ「タ」ラ「オコリヨリマ  
ン」ノヤ それ0
- 85 (そうですね)「ザンパ」ンツクルト、マー「ショクリョー」ナンデ
- 86 「ナ」ンギ「イッテン」ヤサ「カイ ハヨ クテ「マ」エー アトデ「アゲテマウ」  
トモ
- 87 クテ「マ」エーテユーテ「クワシヨ」ンノヤ(ほう)「ホントワ
- 88 「ショーネン」ハーノアイラワ ソンナモ」ン「ユ」ックリ クテ「ラ」ライン  
「ナー、
- 89 スト ハ「ヨ」ク「オ」トオモタ」ラー ヤッ「パ」シ アンタ モ」ー「ハンブン、
- 90 ソノー「マルッタクリ、ド「リヤ」イテ」モ「ホンデ」モー チョー「アレテ  
モ」タヤガナ
- 91 フーン「ホイカラ ア」ンタ モー「ミッカメ」ニ「エ」ライノ「ト」ーッテ  
「ナ」ー ハー
- 92 「ド」ッド」ッドト「クライタグッテモ」ーテンヤ ハー「ホンデ」モー カク  
リ「ベ」ンジョ
- 93 アンタ モ」ー「レンペー」ジョーノ「ハシクレニ ベ」ンジョア「ン」ネヤ
- 94 ソ「コ」マデ「ハシッテイク」マ「デ」ニ「デテマウ」ネ そこ2
- 95 ソ「コ」マデ モタ「シメヘン フーン「ホンデ」モー ア「サ」ー ドー」ット 朝2
- 96 グ「ン」イ「ソノママ「ベ」ンジョー シ「ラベニイッコ」ッタラ ヤッパ」シ  
チーガ「ナ、 血0
- 97 アー ホント モ」ー、マー フ「ンドシデ」モ マー ヤッ「パ」シ「チー」ツイ  
「タ」ール シ 血8
- 98 ウーン「ソノ、ショーゾクガ アン」タ「モッテキ」タラ「ショードクガ、ホ



ンマニ

- 99 メ「ー」モナ「ニ」モ マッ「シロケ」ニナリマ」ス エ「ー」ショーゾクノク「ス」  
リト 目2、何2
- 100 「チガウ」ネン 「アンナモ」ン「ナ、ウン 「ショーゾクシヨ」ルヤツ キリ」ット  
「マ」ーッテ
- 101 カケテ「ク」ヨ ッタ」ラ エ「ー」ノ ニ 「コッチャノモ」ン ニ 「マ」ー レッ  
「チュー」オンニヤ
- 102 モッ「ト」ク「ダケ」ダン」ガナーアーメ「ー」モ「ミ」ミモアラ「シメヘン」ワ  
目2、耳1
- 103 「ブー」ット アレ フン「ム」キデ ウーン 「ソンデ」モ マダ 「アクノヒ」ー、  
104 ト」ータッ「タ」ンデ 「ソンデ」モー コラー「イカン」チュー」ノン「デ、「ジキ  
ニ、
- 105 アカーイ「フダ ア」ンター 「モー」マン「ノ」デ カケテ「モ」テン 「ソンデ  
モ」ー 札0
- 106 「ミ」ナト「イッショニネラ」ライン モーカクリ「ダン」ガジキニ 皆1
- 107 (熱とか何かなかったですか) 「ネ」ッ 「ヒト」ッモア」ラシメヘン 熱1
- 108 (そういうチフスだと熱が出ますから) モー シン「ド」イダケデ モー
- 109 「ド「ナ」イモ「コナ」イモ モー 「ソンナ モ」ン 「モ」ノユー」ノモシンド」イ  
物1
- 110 「ホラ モー ハジメノト」キワナ」ー 時1
- 111 「ソノベ」ンジョイイッタラ「ナ」ー 「モ」ー ス「ス」デ クモノ「スーデ、  
煤2、巢0
- 112 クモノ「スーデ、ナー ハイ「ラ」ライン」ネン ンー「ホンデ、ア」ンターキ「ー」  
オッテ「ナ、 巢0、木8
- 113 キ「ー」オッテ モ」ー「ススハキ」ヤ 「ホンデ、ハイリマ」シテン ハー 「マ」ー  
木8
- 114 「ソノー ベ」ンジョエ モ」ー 「ゴ」カイモ 「ド」ッカイモ 「イテルケ」ド
- 115 ケッキョ「ク」ハイッタ」ン サ「ン」カイカ「ヨ」ンカイ「ホドダ  
(誰も使ってない便所)
- 116 「ソーダ ソーダ ソラ モー」 カクリ「ベ」ンジョ「チュ」ーテナ 「ソーユー
- 117 デンセン」ビョーノ」 ケー「ノアル」モン「ミ」ナ 「ソノベ」ンジョエイカ」イ  
気0
- 118 フツーノ「ベ」ンジョ ソバ「ニ」アンノ ソ「バ」エイ」タラ「アキメヘン」 ネン  
側92

- 119 モー アカイ「フダオ マ」ー「ブランツケテ マ」ーツタラ「ジェーツタイ  
ニ」ツバ」エ 札0、側2
- 120 「ソンデマ」タ オンナジ「ニュータイシ」タモ」ント
- 121 「モ」ノモユーコ」トモデ「キ」ヤ「シメヘンノ」ヤ（完全隔離ですな） 物1
- 122 「カンゼンカ」クリダ、デ「コンナヤ」ツオ「オイト」イタ」ラー マー コノ 奴1
- 123 「ナナ」ジューサン ブ」タイノ「ナオ」レニナル「チュート」コヤ「ナ、「ソンデ」  
モー
- 124 「ジキニ」ヒ「ビョ」ーイン「オクッテ」マワッテ「ハコンナ」カエ「イレテ  
箱0、中1
- 125 ハ」イ デ ハ」イヒ「ビョ」ーイン「イ」タカ」テ、アー「ソ」ラ モー「ケ」ガイ」  
テー 怪我1
- 126 ナニ「イ」タモ」ンナラ ソラ カン「ゴ」フモツイテ「オ」ルケド
- 127 「デンセン」ビョートキ」タラ「ホッタラカ」シダッセ ク「ス」リアラ「シメヘ  
ン」デ
- 128 （それでも災いが転じて）ソレガ ナカナカ「ソンデ ソノナ」ー モー オモ  
ユー「ガ
- 129 「アン」タ チャワン「ニ」イッパイホ」ド「ナ、ア「サ」ヒルバ」ント サ「ン」ショ  
ク 朝8、昼0、晩1
- 130 モッテ「キヨリ」マン」ネン ハー マー「エ」ライオ「バ」ーサンノカンゴ」フ  
ダ
- 131 「エ」ライ「マ」スクカケ「テ」モッテ「キヨリマン」ネヤナハー「シー」ロイ  
「マ」スクデ
- 132 カオアン」バイ「ワカラングライ エ」ライ「マ」スクカケ」テ「ワテノ」  
顔0、私0
- 133 ソ「バ」エクン」ノンガ「カンデンシタ」ラ「イカン」トモテ「ナ 側2
- 134 ヨボー「チュ」ーシャミ」タイシター「オメヘン」ヤ「ロ、ホ」ー「ソ」ヤカラ
- 135 「カンデン モ」ー ワガ「ウ」ツッタラ「イカン」トオ」モテ「ヘ」ライ マズ  
我が0
- 136 メーダ「ケ」ヤガ「アイターンノ「ソナイシ」テ ア」ンタ オモユ 目\*0
- 137 「チョ」ットソ「ト」イオイテ「トンデッテイテマウ」ンヤ ハー デ「ソレオ」  
マー それ9
- 138 モ」ー「ハ」ラヘッテモ」テ「ハ」ラ カラッポ「ダン」ガナ 腹11
- 139 ド」ッド「ド」ッド「ト」ーリタオシテ」モータ ナ「ニ」モク「ワ」ー「シメヘ」  
ヤンナ

- ソレ 何2
- 140 グググググ」テ「スーテマシ」タンヤ、ア「サ」ヒル「バン」トス」ーテ  
朝0、昼1、晩2
- 141 「アクノヒ」ーナッテキ」タラモーオマン「ベ」ンジョ「イキトーナルキー」モ  
「シャー」インガ 日2
- 142 フーンデ モ」ー ヒ「ビョ」ーインデ「ア」レモー「ヨッカアレ」モ「ピ」ンピン  
「シテモ」ーテタガ
- 143 「モトノ」トーリ」ニナッテマイ「マシ」タガ、ハー  
(そこから帰されたんですか)
- 144 ハー「ソンデ マ」ー「ソレカラ ニカ」イホド テ「ガ」ミ「キマ」シタ
- 145 (又どういう、召集か何かですか、やっぱし)  
アノー「イ」ヤイ」ヤ「ア」ラー「ナ
- 146 「リクダ」ンショーノハンワ「オイテマ」ンネン「ナ、
- 147 「ケンコー ジョ」ータイシ「ラセ」チュー ハー デモ「ソナジブンニナー
- 148 「ヤオデ」モドッコニ」モ「ザイゴー」ダン「ジン」カイ「チュー」ノアリマ」シテ  
(はい)
- 149 デ「ソノ トノ」ハンモロテ デ マタ「イシャノショーメー」カイト「モ」ロ  
テ 判\*0、医者0
- 150 マー マダ「ヨータイワ、エーン ナ「ニ」ヤ「ヨーダイワリョーコーセ」ズ
- 151 チューコ」トーカイト「モ」ロテ デ ハン「ツイテモ」ロテ 判\*0
- 152 「ソレ」オクッテマシ」テン「ソレ」、サ「ン」カイホド「オクッテルアイダ」ニ  
アン「バ」イ
- 153 「シューセン」ナッテ「マ」ワッテ ウン  
(本当にあれやったですね、九死に一生みたい)
- 154 ウ」ン「イ」ッショーダン」ー「ソレカラ」モー アト「ナ」ー「ソレデ  
後\*0、それ0
- 155 「ハランナカクダッテモ」テ ナ「ニ」モカ」モ「デテモ」ータンガ 何2
- 156 「ソレカラコ」ッチー エ」ライ「タッシャン」ナッテ (ほう)
- 157 「セ」ヤサ」カイニ「ナ」ー「ソラーモー」ウ「ン」チューモー「マ」ー「コレ」モ  
ヤ「ナ」ー これ2
- 158 ウ「ン」テユ」ータラエ「ー」ノンカ「ナ」ー マー「ジュ」ミョーガア「ル  
チュー」ノンカ 運2
- 159 ウン「ソラ ア」レナ」ー「ヨーノビョーキ」ヤッタ」ラ ヤッ「パ」リ 余(他)0
- 160 「ソーユーナ」ー ク「ス」リモ ア「リャ」ー アー「ン」ヤ「テ」アテモ「シヨリ

マン」ネン「デー、

161 ソ「ヤケド デ「ンセン」ビョートキ」タラ ヨ「リツ」ツコ「ナ」シデ 「ハ」ー ソ  
「ラモ」ー

162 ソ「ンナ」モン マー ソ「ーサ「グ」ンイデモ モー ガッコーデ「ダモ」ンガナ  
「ナ」ー

163 ワガ「ウツラ」レタラカナ「ワントオ」モテ 「ヨリツツコ」ラインガナ 我が0

164 「ダイナシ」、ク「ス」リアラ「シメヘン 「ホッタラカシダ」ッセ

165 カクリッ「ツッテモ 「ホラ ミジ「メ」ナモ」ンダ (他にもそういう人ない?)

166 「ソント」キニ モー (何人かは)

「ソノマ」ー ナンダ「ン」ガナ 「ブ」タイナカ「デ」モ

167 「ワテヒト」リ ヒト」リダケダ ハー 「ソラモー ナ」ー「ア」レ」ワ

わて0、あれ2

168 「デンセン」ビョートキ」タラ ナン「ボ イ」シャデモ ウツ」ッタラコ」マルト  
モテ

医者1

169 「ヨ」ー「キヨ」ラ「シメヘン ンー ホンデ 「ベツニナ」ー オカイサ「ン」テ  
「ユー」ノ

別0

170 アラ「シメヘン」ヤ「ロ、「ヘータイニワ ンー ナンデモ「カン」デモ

171 ショク」ジショー」トオモータ 「マ」タ 「ソノ マ」メクワ」ンナ」ラン 「マ」タ

豆1

172 「コッチャ」モ モー 「クワ」ライン

(その時はもう分かっていたか? 伝染病ではなく豆食ったのが悪かったのだということ)

173 ソー 「ソーユー ワカッテマ」 ナン」ヤゲンキ「ヨ」ー 「イ」テヤ」モンモー  
(そうですね)

174 「ハ」ー デ オマン ヤッ「パ」リ オマン ハイッタ「ト」キ 「シンタイゲ」ンサ  
ン「シヨンノガ

175 「コレ」オマン 「コーシュエデ」ハイリ「マ」シテンヤ

(その時は伝染病だといわれて「違う」ということを言わなかったんですか)

176 イヤ 「デンセン」ビョーヤ」テユーコ」トワ 「ヒト」クチモ「ユオ」ラ「シメヘ  
ン ム」コーワ

177 (とにかくもう、理由もなしに) ハー モー 「デンセン」ビョーヤ」テ「ハッ  
ピョーシ」タラ

178 ヤッ「パ」リ ソノー(隊の)ソ「ーダ「タ」イノ マダネ 「フメ」ーヨニナリ  
マッ「シャ」ロ、

- 179 ハー「ソ」ヤ「カ」ラ モー「ソレワ ナイナイデ、ピ「シャ」ーット 「イテモ」  
テ「バー」ット
- 180 「カッテニ」カクリ「サレテモ」テ（おじいさん）ンー「オレモー」「コー」  
ヒエ「ーノ」ヤ
- 181 「ア」ンタ「ア」ンタ「ドナイ モ「ーイ」ッパイ ノミ「ナ」ハル「カ」  
（どうぞお構いなく）
- 182 「ソ」ヤサ「カイナ」ー「ソラ マ」ー ナ「ニ」ヤ「ジュ」ミョーヤ
- 183 「ソラ ワテワ」モ アコデ「ナ、ハ」ラ「トーラ」ナン「ダ」ラ モー 私0、腹1
- 184 ゼッタイニモド」ッテ キ「ラ」ラ「シマセン フン「ホラモ モ」ーナ」ー
- 185 「グ」ンタイワ モー「デンセン」ビョーガ「イチバン イヤガ」イヨル ミン  
「ナ、
- 186 「コノー」ショ「ク」ジガ「イッショ」ヤカラ「ナハー「ホラモ」ー
- 187 カクリ「ベ」ンジョデモナ」ー「マ」タ ソ「ト」イデ」テ ヘ「ヤ」エハイッタ」ラ  
外2、部屋2
- 188 「マ」タ「コ」ンナ」ラントオ」モテ「タテー、ジュップ」ンカン「デ」モヨ  
「ケー」ハイッテ
- 189 ダスダ「ケ」ダ「ソ」ート「オ」モテ ナガイ「コ」トハイッ「テ」タラ「ヨビニキ  
ヨリ」マンガナ
- 190 ソコデ「ヨ」ー「ジ」コオキ」ンネン「テ（あゝ成る程） 事故1
- 191 アーソコデ「ヨ」ー「シニヨルラシハ」ッテ「アタ」マガ「ボー」ットシタヤ」  
ツガ 奴1
- 192 イテ モー「ナサケノ」ーテ「クビツ」ツタリ ナ「ニ」ヤラ「ヨ」ーシニヨル  
ラ」シ 首0
- 193 「セ」ヤカラ モ「チョ」ットヨ」ケー「ナ」ガイコ」ト ハイッテ」ター「ファー  
イ」ッテ
- 194 「ヨニキヨリマン」ネン  
（でも、腹の調子が悪いわけだから、長くいなけりゃ始まらない）
- 195 「アキメヘン」ノヤ「ナ」ー「マ」タ「ナ」ー「カエッテキ」ター「マ」タ
- 196 「トー」イ「ト」コマデ「コ」ンナリメヘン「セ」ヤカラ「タテー、モー「ナ」  
ガイコトデ」モ
- 197 モ「ツクモッテ」ニヤ「イカン」トモテ「フ」ーン「テタラ「ナ、
- 198 モー「ジュ」ーゴ」フンホドオッタ」ラ シャーット
- 199 フ「シ」ンバンガ「ムカエニキヨリマン」ガ「ソナイシ」テヨ「ビニキヨリマ  
ン」ネン ンー

- 200 ヤッ「パ」リ「ソーユーコ」ト「デケルトナ」ー ソンナモ」ー「クビツッタ」リ  
首0
- 201 「ソンナコ」ッテ「ヨ」ーソコデ「ソーユージ」コガア「ン」ネンテ「ユートリ  
マシ」タ 事故1
- 202 フン ソ」ヤケド「ナ」ー「ナカナカ、「アンナト」コデ「ハ」ラト」ーッテ「ソ  
ラ 腹1
- 203 ワテナー「ジーノ」ケーガ「ナ」カッ「タ」ラ「アンナチーガ  
私0、痔9、気0、血0
- 204 マジラシメヘン」ネ(そうですね)モー「イクト」ッカラ
- 205 ジー モー「ナ(混じっていました) モー「イクト」ッカラ モー「ジーダン」  
ネンンー 痔00
- 206 ンー「コレワモーナ」ーモー「ハタチグ」ライノ「ジブンカラ、「ジーダン」ネ  
ン「ン」ー 痔0
- 207 (痔というのは直るんですか) ンー イマワ「モ」ー ピシャ「ー」ット「ナオ  
リマ 今0  
(医者へ掛かりましたか) ハー (医者へ掛かったら直りますか)
- 208 ハー「イ」シャエカ」カッテ「ナ、「オーサカノ アノー 医者1
- 209 カトービョ」ーインチューテ「ナ、「アレ」「カトービョ」ーインター「ジーセ  
ンモンノ「ナ」ー 痔0
- 210 「ア」レ「カンインノミヤカ」ナンニヤ「ア」レ「トーキョー」マデイ」テ  
「ナ」ー、
- 211 「ソーユーヒト」ノジ」モ「シュ」リツ「シテキハ」ッタヒ」トダ 人21、痔0
- 212 「ソラ エ」ライ「エ」ライヒ」トダ デア」レ「シューセンナッテカラ 人1
- 213 「ソノビョーイン」ハイッテ デ モ「テッテーテキニ、ア」レ「シュ」リツ
- 214 「シテモ」ロテ「ナ、ハー「セ」ヤケド「ソノト」キ「ワ、モー「クーシュー  
デ」 時1
- 215 モー「ナ、モー「カトービョ」ーインモ モー「クーシューデヤケテモ」テ デ
- 216 「トナリニ、オ「テ」ラアリマン」ネン「ソノ」オ「テ」ラカ」ッテ「カイ  
ギョーッタハリマン」ネン
- 217 セヤカラ「シュ」リツワ「ホ」ンドデフ」ーン「ソレガ ア」ンタ モー「ナ、
- 218 モー「ソノマ」ー ナン」ヤ マスイ「ノ」チューシャ」モナン「ニ」モアラ「シメ  
ヘンノ」ヤ
- 219 「ソノイシャ」モ「セ」ヤカラ モー ナ「マ」ダッセ(痛かったでしょうな)  
医者2、生2

- 220 アー モー 「ア」シモ「ト」ット テ「ー」モ「ナ、ド」ープデ 足1、手2
- 221 「ククリツケテモ」テ ソンデ「シュ」リツダンガ アー「チドメワ ア」ンター
- 222 カンテ「キ、「エー」ライ ヒー「コシラ」エテ ソ「コ」イ「コテ」そこ0、こて0
- 223 サンボン「ツッコ」ンダンニャ デ「チーデテキ」ター ソノコテ 血0、こて0
- 224 「プー」トフイテ「シュ」ート「アテヨリマン」ネン（無茶苦茶ですな）
- 225 ウン ソースト「ジュー」ツチュエーテ「イッペ」ンニ「トマッテマウ
- 226 クロ「ー」ナッテモテ「チドメ ソレダン」ガナハー「ソ」ヤカラ「ワテ」ラデモ「ナー
- 227 イマ「ジー」ヤッタ」ラ モー ンナン キッタ「カ」テ「ナ」ー 今\*0、痔0
- 228 「フツカミッカ ニューインシ」タラ モ「カヨベルケ」ド「ナ」ー「ワテ」ラモー
- 229 「ヨンジューニチノアイラ、「ア」シタタ「シメヘン「マ」ー アノー 足1
- 230 「ビョーイン」サイテ「オカタ モー ニューイン」ドッ「カ」ゲツシマシ」タ
- 231 オ「テ」ラノ「ホ」ンドデ ン「セ」ヤケド マー モー「ジーデ、 痔0
- 232 「ソンナチー」オ「リ」タリ「ソンナ マ」ー「イ」タイテ「ユーコ」ト「オメヘンケ」ド「ナ」ー 血8
- 233 マー「ジンコーコ」ーモンダ イマ「デ」モ（あ、そうですか） 今\*0
- 234 ン「ー」カントン」ダッコ「ジ」カクツチュ「ーテ「ナ」ー モー「ジー、 痔0
- 235 コーモンノ「シュ」ーイガ「ヒックリカエルヤ」ツ「ゼ」ンブ キット」ツテ
- 236 キリヨリ「マシ」テン フン「セ」ヤサカイニ モー「コノグライノ モー
- 237 「リンゴグ」ライ「スプーン」ト ナ「カ」マデハイル「グライキリ」トッテモ「ーテ ン「ー 中2
- 238 「ソンデ モー」ドッ「カ」ゲツモ「ニューインシマシ」テン  
（6ヶ月入院ですか）
- 239 ン「ー」モー ヨンカ」ゲツデ マ「ー ドナ「イ」ナー ト マ「ー「アッチム」イタリ
- 240 「コッチム」イタリ マー「デケルグライデ、「ソ」ヤケド アル「カ」ラ「シメヘン」ネ
- 241 「ヨコニ モー ナ」ー「エビミ」タイニ「ヨコン」ナッテ「ネ」タママ」ダ ン「ー 横09、海老0
- 242 「ホラー」タ「イ」ガイッ「ラ」カッタケド「ナ」 ン「ー「ソ」ヤカ」ラマー
- 243 「コシラ」エタコーモ「ン」ヤサ「カイ「ナ」ー ア「ー「ム」リワ「デケ」ヤ「シメヘン 無理1

(その時、加藤病院で教えて貰ったんですか) ソーソ」ーソ」ー  
(えらいもんですな)

244 イマ「デ」モ「アレオーサカノスエヨシ」バシニ「カトービョ」ーインテ

245 「エ」ライ「ビョーインガオマ (昔からあるあれですか)

246 ムカシ「カラ ソレ」 イマ「ムスコノ」ダイニナッテ「マ「ホラ モー ナカナ  
カ ナ」ー「ア」ノ「セン」セワ「ソラ ジー センモンデ ナ」ー「エ」ライ  
エ」ライ モ」ン ダッセ ン

247 ホラモー ンナー チュー「シャ」ヤナンテ イッ「ポ」ンモアリヤ「シメヘ」ン  
ワ モー「ミ」ナモー ナ」ー

248 「アンナジブンニワ」モー ソコ「ラ」ノ「イシャデ」モ チューシャ「ノ」クス」  
リワ モー

249 「ミ」ナ モー ア」レ モー「ゲ」ンチー モテモート」ルサカイ「ナ」ー マー  
モー

250 「ミンカンノビョーインワ ソンナ」ヨッポ「ド」ヤナケ」リヤー チュー  
「シャ」テユーノワ

251 ア「ラ」シメヘンン「ソラモ」ー「エ」ライメー「オーテマン」ネン「デ、ワ  
「テ」モ ソラー

252 (73部隊の命運を分ける時期におられて) ン「アレ カコガワニ ナ」ー

253 「エ」ライ「レントアイ ア」レ「ジェ」ンゴクカラ「ヨッテ」マンネン「デ、

254 「ミミノ」エーモ」ント メ「ノ」アルモ」ン メ「ノ」エーモ」ン「ナ 耳9、目99

255 (それ何か、そういう情報を集めるあれだったんですか)

「マ」ー「ダイタイワー

256 エー「マ」ー「コ」クドオ「マモル ヘータイ」ヤ ア」レ シュ「ビ」ヘーミ」タイ  
ナモ」ンダ (守備兵ですか)

257 ハー ソンデ マー「テキ」キガキョ」ッタラ ウチオト「ス」ワケ」ヤネン  
「セ」ヤカ」ラー

258 マー「ミミノ」エーモ」ント メ「ノ」エー「モ」ンヤナ「ケ」ラ「ソレマニア」ワ  
ンネヤ 耳9、目9

259 「ソラ ワテ」、ア「コ」イハ「イ」ルマ「デ」ニ ソーラ「ンナ モ」ン 私0、あこ2

260 「ヤオデ、ソラモー サ「ン」カイホド シ「ケ」ン「シヨリマシ」タ「デ 八尾0  
(目の試験もしますよね)

261 メノ「シケ」ント「ミミノシケ」ント (目も良かったんですな) 耳0、目\*0

262 「メ」モ「ヨロシワス」ネ (良く見えたんですね) 目1

263 メワ「アノジブンワ ソラ ンナモ」ン イマワ「ソラマ」ー「ドーガンデ



- ナ]ー 目0、今0
- 264 「メ」ガネカケル「ケ」ドモ「アンナジブンニ」、ンナ「ソーラ ホンマニ  
モ]ー
- 265 「ミ」ミデモ ソラ モー「ミミノセンモンガ ソラナ]ー「グ」ンタイカラ  
「キ」テ 耳10
- 266 「ソーラ ジューブ」ンニ「シケ」ン「シヨリマシ」タ「デ、ホンデ ア」レ「ナ]ー  
「ヤオデ」 八尾0
- 267 オーカタ ヒヤク「ヒヤク」ニンア「マ」リ「アレ チョーヘーケ」ンサンアッ  
タ「ケ」ド
- 268 マー ワテヒト]リダンガナ（入りました）ハー「ミ」ミトメート「ガ、  
私0、耳1、目\*0
- 269 「ゴーカクデ、ンー「ホンド モー ジキニ パーット カコガワ」ヤ  
（その時から加古川にそういう陸軍の部隊があるという事は知っていました  
か）
- 270 「ワテ ソン」ナン「シラ」ナンデン（あ、そうですか）モー ココ「ラ」ワ「ナ]ー  
モー
- 271 ハチ「レ」ンタイカ サンヒ「チ サンヒ「チ」カ「ナ」ー（三七というところ  
で）
- 272 サン「ヒ」チッタラ「オーサカノ アノー マー」ナンデッダン]ガナ  
（信太山の方）
- 273 イヤ「シノダヤマワシノダヤマ（信太山ですか）」セ]ヤカラ イマ マー  
今1
- 274 「オーサカノー アノ」マー「ダイガクビョ」ーイン「デケテマッシャ」ロ
- 275 （大阪大学の大学病院ですか）ン]ー ア「コ」ラ「ミ」ナズーット ハチ「レ」  
ンタイニ
- 276 サンイチ「ナランドオ」マシテンヤ（丁度、森ノ宮の）ン]ー「ソ」ーソ]ー  
「アノー
- 277 「エヌエッチケ」ーノ「アノ ホーソ」ーキョクノ「ニシナニズー「ッ」ト「ア  
レ」ヤ マー
- 278 サンヒ「チ サ「ン」ジューヒチ「レ」ンタイヤ（法因坂、あのあたりですな）  
「ウ」ン ソ]ーダ ソンナ
- 279 モ]ンヤ「ナ（大阪城の）」オーサカ]ジョーノ「トナリダ ンー ココ「ラ」ワ  
「ミ」ナ
- 280 アコ「ダー ンーアコ「カ、ハチ「レ」ンタイ ハチ「レ」ンタイト」サンヒチト

- 281 「ナランドマ」シテン ムカシ「ナ」ー「ン」ー デー マー「カラダノゴツ」イ  
モ」ン マー
- 282 アノー ナニ」ヤ ワ「カ」ヤマノ「ジュ」ーホーナ（岬の方にあった奴ですか）  
アー ソーソーソー
- 283 フン（あそこ丁度攻めてくるのに防ごうとしたら）ソ」ーソ」ー ン」ー
- 284（あそこに大きな大砲があったらしいですね）ンー「ギョー」サン「オマン」  
ガ  
（加太の方でしょ）
- 285 「カ」ダノ カ」ダ「イク テマエニ」ナ
- 286 「テマエニ オマン」ネン「ア」レナ」ー「ミヤ」マ「ジュ」ーホーチュ」ーテ「ナ  
（深山ってありますね）
- 287 「ソ」ーソーソーソー「ミヤマジュ」ーホー（丁度先端ですね）「アレ」モ マー  
「ナカナカ」
- 288 カ「ヤ」クーデモ「エ」ライカヤ「ク」コ「オマ」ッセ アー  
（向こうがアメリカ本土の上陸を食い止める拠点だったらしい）
- 289 クイトメ「ル（八尾の飛行場は 昔からありましたか）「ム」カシカ」ラオマ」  
シタ（やっぱり）
- 290 「ムカシカラ ワテ」ラ モー「ハタチグラ」イノ「ジブンカラ」ヒコ「ー」  
ジョー「オマ」シタ
- 291（海軍のあれだったんですか）ン」ー「カ」イグンノ「アレ」カ チッコーイ「ア  
レナ」ー  
あれ2
- 292「ミンカンノ」ヒコ」ーキ チッ「コ」ーイヒコ」ーキダケダシ」テンケド「ナ」ー
- 293（それ飛ばしてましたんですね）マー「ソナジブンニ ヤオトタ」テツニ  
モ
- 294 ヒコー「ジョ」ー「オマシ」テンケド「ナ」ー  
（立津、ここら辺だいぶ変わったのと違いますか、家が建って畑もほとんど）
- 295 ヒコー「ジョー」モ ダッ「カ「ヤオノ（このあたりもね）
- 296「コノアタ」リモ「カワッテマウクラ」イナ「モ」ー「ウ」チカラ「ムコ」ー  
スッ「カ」リ  
家1
- 297 モー「フクマ」ンジンマデ ノ「ハ」ラ イッケンノ「イ」エモアラ「シマヘン  
「デ（昔）  
家1
- 298「へ」ー「ム」カシ ア」ンタ「ソナ モ」ン ナ」ー「ワテ ア」レ、 私0
- 299「ショーシュー」ナッテ「イクト」キデ」モ「カ」ヤフリノ イマアノ ノーキョ  
「ー」アリマ「ス」ヤンナ  
今0

- 300 アッカラ「ヤオ」マデ 「イ」エ イッケ「ン」モアラ「シメヘンガ スッ「ク」リ  
家1
- 301 ノ「ハ」ラダンガナ ハー 「ソレガ コンナニ」ナッテ「モ」テ「ナ」ー  
(どこへ行ってもね)
- 302 ンー モー タン「ボ」バツ「カ」リダ アー コクヨ「ビ」ンセン「ノ」アコ」モ ズ  
「ー」ット
- 303 「ゼ」ンブ タンボ「ダン」ガ ハー (それがまあ、いろいろ出来たんですね)
- 304 「ソレガ ア」ンタ イマ「コナイ」イテ「ナ」ー バ「ー」ット マー 「ドコ」マデ  
ガ
- 305 「カ」ヤフリヤラ 「ドコ」マデガ「ヤオ」ヤラ「ナ」ー ンー イ「マ」マデワ 今2
- 306 「ヤオ」チュータカテ「ナ」ー「ヤオジュ」ーロッ「カ」ソンデ「ヤオン」ナッテマ  
シ」テン 八尾0\*09
- 307 (昔はですか、すると) ハー 「カヤ」フリ ア」ノー 「サ」ドー「ナー、
- 308 アー イ「マ」イ ベップ「ショーノ」ウチテ「ミ」ナ ミー「ン」ナ イマ「ソノ」
- 309 チョーメー「カワッテモ」テ (16ヶ村あったんですな) 「ジュー」ロッ「カ」ソ  
ンダ  
(今はもう、全部が分からなくなってますね) ソーソーソーソー
- 310 (境が皆引っ付いたみたいな) モー 「ヒッツイテモ」テ 「ワカ」ラ「シマヘン  
ンー
- 311 「セ」ヤカラ 「ヤオ」シデモ イマ「ナカナカ、オーキンナッ「テモー」タール  
サ」カイ「ナ」ー  
(人も多いですしね、近鉄の電車のあれ、あの辺りはどうだっんですか)
- 312 キ「ン」テツノ 「ワテ ワタシ、「ア」レナ」ー ジンジョー「ロク」ネンシェーノ  
ト」キ「ニ」ー
- 313 「ハジ」メテ 「フセ」カラ「ヤオ」マデ アノ マー 「デ」ンシャ「ヒートリマ  
シ」テンヤ
- 314 ンー マダ モー アノ ガッコーイ 「イクノ」ン 「カヤ」フリデ」モ
- 315 「ジュー」ロッカ」ソнга 「ヤオニ ガッコー「ヒト」ツ「オマ」シテンヤ 八尾0
- 316 (16ヶ村が、学校一つだけですか)「ヒト」ツダ(皆そこへ集まったんですか)
- 317 ンー 「ソ」ーソー (まあ、えらい) ショーガッコー「ナ (人数が多かったで  
しょうね)
- 318 イヤ 「ソナイエ」ライ ニ「ン」ズーヤ アラ「シメヘン 「ソンデ」 モー
- 319 セン「ゴロツピャク」ニント「チガイマッカ (はあ、1,000、5、600人)
- 320 ンー ジン (鼻音) ジョー「ロク」ネン「イジョーダ」ッ「セ、ハイ

- 321 (あそこ中河内郡でしょうな)「ナカガワチ」グンダ (中河内郡の八尾)
- 322 「ヤオ」シ アー「ヤオ」チョーヤ
- 323 (八尾町だったんですね、萱振、恩地はどうなんですか) オ「ン」ジモ「ヤオダ」  
八尾0
- 324 (八尾ですね、十六ヶ村の一つですか)「ヒト」ツダ ンー
- 325 (すると、その小学校へは恩地の人も来たりしていますか)「キ」タリ「シテマ  
シ」タ アー
- 326 「ソレ」マ「デ」ワ「ナ、ジンジョー」「ヨネ」ンシェーマ「デ」ワ オ「ン」ジナー オ  
ン」ジ
- 327 「カヤ」フリナラカヤ」フリ チッコ」イ「ショーガ」ッコーアリマ」シテンヤ  
「ン」ー デ
- 328 ンー ソコデ「ヨネンマ」デ ミンナ「イ」テ「デ、「ゴネンカラ、
- 329 「ムコ」ーエ「イク」ワケ」ヤ「ヤオ」エ「ヤオ」エサイテ「カタマル
- 330 (4年間はあれで、5、6年で固まるわけですか)「ソ」ーソーソー「ソレ」  
マ「デ」ワ
- 331 「ムラノー、チー「サ」イガッコーデ「ナ、ハー「ソ」ヤサ」カ」イニ アッチ」ワ  
マ」ー 村0
- 332 「ナガノコザカ」イ「ワ、「ナガ」ノコザカ」イデ「ヒト」ツ ジンジョー「ヨネ」ン  
シェーマ「デ」ワ
- 333 デ「ゴネ」ンシェーナッ「タ」ラ「ハジ」メテ
- 334 「ヤオノ」ガッコーイ「ミ」ナ「ヨル」ワケ」ヤ ハー「セ」ヤカラ  
八尾9、皆1、訳2
- 335 「ソナイニ、「ブ」ラクノ エロー「オッキ「ナ」カッテンケド「ナ、「ソレ」イマ  
ア」ンタ
- 336 「ナーッ カーナカ、ナマエノカ」ワッタチョーメーガ「ギョ」ーサン「デケテ  
モ」テ「ナ
- 337 (大きく名前が変わりましたか)アー「カワッテマ
- 338 (久宝寺の方は昔からありましたか)アッ「キューホ」ージワ ムカシカ「ラ」  
ヤ
- 339 (あの辺り昔から高級な住宅がありますが、あれも農業ですか)ノ「ー」  
ギョーダ
- 340 (農業で大きな家が多いですね)「オー」キー「イ」エ「オマ モー「ヤオ  
ジュー」、 家0、八尾0
- 341 ロッ「カ」ソンワ「ゼ」ンブ「オーカタ ノ、ノ「ー」ギョーダス「ナ、マー「ソ

ンナジブンワナ]ー

- 342 コート[ー コートー「イクモ」ン チュー]ノン 「ホンマニ モー ビ「ビ」タル  
モ」ンダッ「セ (あ、そうですか)
- 343 ヨッポド「カネノ」アル「ウ」チヤナ「ケ」ラ コートー (行きませんでしたか)  
金9、家1
- 344 アー「イカハ」ラヘン 「ミ」ナ ジンジョー「ロク」ネンデ「ナ、  
345 「ソレガ ギムキョ」ーイクヤサ」カイ「ナ (高等はどこにありましたか)  
346 ヤー コー「ト」ーモ 「イッショニ ヤオ ヤオ」ノガッコー「ニ」アリマ」ンニ  
ヤ 八尾2
- 347 「ヤオ」、ジンジョ「ー」コートー「ショーガ」ッコーダ (尋常と高等と両方)  
348 「ハ」イ「ア」レ ジンジョー「ロク」ネン 「ソツギョーシタ」ラ マ]ー コー  
トー「イク」モンワ
- 349 コートー「エ」ハ「イ」ッターヨロ」シ コートー「ワ」ニネン「キョ」ーイクダ  
「ン」ー「ソ」ンデ
- 350 マ]ー ソツギョー」ヤ ンー ソコデ 「マ]ー 「ゴ」ロクジューニング」ライ  
そこ0
- 351 マー ソノーアッ「テ、マ]ー ソッ「カ」ラ チュ「ー」ガク「イクモ」ンワ マー  
352 フタリ「カ」サンニン「グ」ライ (始めまあ、小学校6年まで1,500人いるわ  
けですね) 「ソ」ーヤ
- 353 (今度高等へ行くのがその内の1割) モー 「サンブンノイチ」、ヨッポ「ド、  
マ]ー
- 354 「ニブンノイチグ」ライダッ「カ (あっ、高等まで行く人が) ニ「ネン アト  
355 (七百何十人と行く) アー「ソ」ーダ (そこから中学へ上がるのは)  
356 チュ「ー」ガッコーエ「イク」ノンワ ソッカ「ラ」ゴロク「ニ」ンチュート」コ  
ダッカ
- 357 (その七百何十人の内でよく出来る者) 「マ]ー ヨッポド「ヨ」ー「デ」ケテナ  
358 ソ「コ」ノウチ」ガ「ユーフク」ナ「モ」ンダン「ナ、ソ「ヤ」カラ モー 家2  
359 ノ「ー」カヤサ」カイニ モー ジンジョー「ドクネンセーグ」ライノ「ジブンカ  
ラ、モー「ナ」ー
- 360 「ナツヤス」ミヤ「フユヤス」ミ スッ「ク」リ ハタ」ケ「イテマシ」テンヤ「テ  
ツダイニ
- 361 「ソ」ヤカラ「ナ」ー 「メージタイショーウマ」デ「デ、「ソナイニ、ジーノ 字2  
362 「ヨ」ー「シッテルモ」ンワ 「エ」ローアラ「シメヘン、「ソラー マ]ー  
363 「ベンキョース」キデ「ナー、ドク「ネ」ンセーア」ガッタ「カ」テ「マ」タ 好き0

- 364 「イッショ」ー「ケンメニベンキョーシテルモ」ンワ 「マ」タ ソコ」ソコ  
 365 ジー「ヨ」ーカキマツケ」ド「ナ、ンー マー ジーノ「ジョーズヘ」タワ コラ  
 字00、下手1  
 366 マ」ー 「ソノ」ホンニンノ「タイシツミ」タイナ「モ」ンダッセ（そうですね）  
 367 「ホンナモ」ン ア」ンタ モー 「ダイガ」ッコー「デ」タ「カ」テ モー 「フデモ」  
 タシタラ 筆0  
 368 モー ホンナモ」ノ サンモンノ「ネウチ」モナイヨーナ「ジー」ヤ 字2  
 369 （そうですね、萱振って、だいぶ家増えましたね）フエ「マ」シタ ホ」ラ  
 370 「エ」ライノンフエ」タ 「ソ」ヤカラ 「ジュー」ロッ「カ」ソンノウチデ ヤッパ  
 371 「カ」ヤフリノブ」ラ「ク」ガ 「イチバンジ」ンコー「オー」オマ」シテン「デ、コ  
 スー「ガ  
 372 （その16ヶ村で）ヘー 「ジュー」ロッカ」ソンデ モー 「イチバンオー」カッ  
 テン  
 373 （丁度真ん中に近いところがありますな）ココ「ダッ」カ  
 374 （南の方ですか、これ八尾の）「チョ」ット「キタヨ」リダ（北寄りですか）  
 375 モー 「トナリワ マー コレ ニシコ」ーリチューテ「ナ、イマ「ワ」 モー 「ナ  
 マエ  
 376 カワッテ」マ アー ソッカラ ム」コーワ 「ワカ」エダ ンー イマ「デ」モ  
 377 ソラ マ」ー 「エー」ライカ」ワ 「オマッサ」「ロ、「ソノカ」ワ「オ」ーヘダ」テ  
 テ 川1  
 378 「コッチャワ ヤオ」シ 「コッチャワ ワカ」エ 「ヒガシオ」ーサカ  
 379 （東大阪ですね）「ナカガ」ワチダ ンー  
 380 （16ヶ村は皆八尾ですか）「ジュー」ロッカ」ソンワ 「ゼ」ンブ 「ヤオン」ナッ  
 テマ  
 381 （東大阪って言っているところは？）「ヒガシオ」ーサカチューノワ アラ  
 「シマセンナ」ー  
 382 （小坂、東小坂の方まで河内ですよ）「ヒガシオ」ーサカダ アー  
 383 （あれが良く分からないもんですね）「ワカ」ランモンヤ 「ナ」ー ンー 「ホ  
 ラ モー  
 384 サ「ン」ジューネンデ 「イッペ」ンニ「カワッテマウ」ワ「ナ」ー アー  
 385 （大阪市内の者でももうとても、土地の値が高くなりすぎて）「ソ」ーダ  
 マ」ー トチ「コ」ーテ 土地0  
 386 「イ」エタテ「ル」トキ」タラ 「ナカナカ」ヤッ「パ」シ ソコソ「コ」ノ「イ」エタ  
 テター 家11

- 387 タテ「ヨ」トオ「モーター ヤッ「パ」リ「ナ」ー「オ」クノカネイルサ」カイ  
「ナ」ー アー 億1、金0
- 388 (なかなかその土地、建ててる所ないですね) タテル「ト」コ アラ「シメヘン
- 389 (空き地という所ないですね)「アキチ」テアラ「シメヘンデ イマ「ナ」 今\*0
- 390 マー「コラ」ノ「ー」カシテルト「コデモヤ「ナ」ー「ウ」レテ「ユ」ータカテ  
「ウラハ」ライン
- 391 (そりゃそうですね)「ウ」ツタラ「ジェーキン」ヤシ「ナ
- 392 (今又、国の法律かなんかでややこしいことになっていますね)「ヤヤコ」  
シーコ」ト ユーテマンガ
- 393 「アンナヤヤコシ」ー「ナ」ー ンー (無茶苦茶ですよ、あれ) ムチャムチャ  
「ダ
- 394 (土地離せということですか) マー「ソーユーコ」トヤ「ナ」ー
- 395 (最近も政府何考えているか分からない) マー「ドナイシ」テ
- 396 トル「シラントオ」モテ「ナ  
(結局、先祖代々の土地というものはそれ売って金儲けしようというものは買  
わない)
- 397 「ソ」ーダ(いろいろ農作物作ってするのがあれで)「ソーダン」ガナ
- 398 (それを止めさせるというアメリカの政策もあるのかも分からない)「ソラ  
モーナ」ー
- 399 モー「コ」メガナ」ー イマワ「モー「ゲンサンゲンサンデ」 米1、今\*0
- 400 ナン「ボ」モ「ツクットランヨ」ーニ「オモーテ」タカ」テ「コレ コ」メ 米1
- 401 「アマッテ」キマン」ネン「ナ」ー (そうですね) ソラ「ウ」チダデモ ナン  
ダ」ッセ 家1
- 402 「ワテデ」モ「ソラー「コ」メワ「ツクッテマン」ネン「ナ、「ウ」チモ  
私0、米1、家1
- 403 クーダケノ「コ」メ「ジューブ」ンニアルホド「ツクッテマン」ネン「ソンデ」  
モ ヤッパ」リ 米1
- 404 {キョーセーテキニ コ」メ「カワ」ンナ」ラン ハー モー「アレ 米1
- 405 コトシデ」モ「ナ」ー ジュッキ「ロ」ズツ ア」ンタ モー「アタマワリデ
- 406 カワ」ニャー「イケメヘン」ネン ハー「ウ」チ「コ」メ「ムシク」テ  
家1、米1、虫0
- 407 ナ」ンギ「シテタ」カテ ヤッパリ「コ」メト「ラ」ニャ「イカン」ソンドケ  
何1、米1
- 408 コ」メ「アマリマン」ネン (そんだけ余っているのですか) イ「マ」マデワ

- 「ナ」ー モー 米1、今\*0
- 409 ア「サ」カラ「ミ」ナ「モー コドモ」ズーット「ナ」ー 朝\*0、皆1
- 410 ア「サ」モ「ヒ」ルモ「バン」モ コ「メ ヨ」ーク「テ」ンケド 朝2、昼2、晩2、米1
- 411 イマ「マ」タ「コドモデ」モ「ホンマニ」ク「オ」ラ「シメヘンヤ」ロ、 今\*0
- 412 カイ「シャ」イ「イテルモ」ン「デ」モ ア「サ」 ナ「ニ」モクワ「ント キッ「サ」  
テンデ「ナ」 朝\*0、何2
- 413 (そうそう、パンでも食べたりね)「チョ」ット「モーニ」ングデ「ソノママ
- 414 「イテマオ」ルサ「カイ」ナ(本当に日本人、米食からパン食に変わりました)
- 415 「カワリマシ」タ モー「ソンカワリ マー「ナ」ー ムカ「シ」ノコ」トオ」モタ  
ラ モー 事1
- 416 ジュー「ド」ードーチューノア「ラ」インダケデ「ナ」ー ハー ムカ「シ」ワ
- 417 ジュー「ド」ードー (重労働) アッ「タ」ー「ナ、」「パ」ンミ「タイナモンクテ」タ  
ラ パン1
- 418 「シゴトニ」ナ「ラ」イン (体力持たないということですね) モ「タ」ー「シメ  
ヘン「マ」ー
- 419 「ジ」カンワ「ナ」ガイシ「ナ」ー ウン ンーナモ「ン アンタ モ」ー
- 420 「ノーハ」ンキノイソガ「シー「ジブン」ヤッ「タ」ラモーアサ ドク」ジ(6時)  
カラ「ナ、 朝\*2
- 421 アー「バンノ ハチジゴ」ロマデ「ハタライテ」タ (本当、重労働ですな)  
晩0
- 422 「ジュード」ードーヤ「ソ」ヤ「カ」ラ「アレ」タ「ベ」ニヤ「イカンネ」ヤ「ナ」  
ンーン
- 423 (だいぶまあ、良く食べましたな) マー「シゴト」ヤロケ」ド「ソレガ  
「ナ」ー、
- 424 イマワ「モー ミ」ナ「トッショ」リワ トッショ」リデ「ダ」クイ」テ「ナー  
今0、皆1
- 425 フーン ナン「コ」モ ク「ワ」ライン フーン「コドモ」チュータカテ ミ」ナ  
皆1
- 426 アサ パ「ンショク」ヤシ「ナ」ー 朝\*0
- 427 (家の子でも、子ども食べない、残しますよ、一口二口食べてもね) ウー  
ン デ
- 428 「ダ」ーメンヤアンナモ「ンショーモ」ナイモ「ンバッカ」シ「チョ」ットコーク  
タ」リ「ナ
- 429 (そうですね)「ソ」ヤ 「コ」メチューノワ「ホンマニ」ク「オ」ライン フーン



米1

430 (余るのは当たり前ですな)「ソ」ーダ (食べないようになった、作るのは  
 どころでなく、食べないようになったから、余るようになった)

431 「ソ」ーダ ホラ 「ヨ」モ エ「ライ」「カ」ワッタモ」ンヤ ウーン 世1

432 (お話のあった避病院というのはどういうことですか) ヒ「ビョ」ーイン  
 チュータラ

433 「デンセンビョ」ーノ「カンジャ」バツ「カ」「カタメタールト」コ ヒ「ビョ」ー  
 インダ

434 (そのヒーというのはどういう字を当てますか)「ヒーワ コノー、

435 ヒートチガイマッカ ハー (病院にあらずの「非」?)

436 ハー マー ト「ニ」カク カク「リ」ヤ「ナ」ー「カタメテマ」オルワケ」ヤネ  
 ン ン」ー

437 「ホヤ、キョ「ー」ビヤッタラ「ナ」ー「ソンナ デンセン」ビョーニナルヨ」ー  
 ナモン

438 ア「ラ」インシ「ナ」ー ナッタ「カ」テエ「ー」チュー「シャ」 イッポ「ン」ウチ  
 ヨッタ」ラ モー

439 「ソンナモ」ン「ナ (直りますわな)「イッペ」ンニ「アンナジブンワ ア」ン  
 タ ナン」モ

440 チュー「シャ」ヤチューチュー「シャ」モ ア「ラ」インシ フー」ン「ホンデ」ナ  
 ンボ「イシャ、 医者0

441 「ナ」ー「ヘータイノイシャ」ヤ ミ「ナ エー「ヤ」ツ ミ「ナ ド「ーツ」ト

442 ヤセン「ビョ」ーイン「イトリマッシャ」ロ マー「コッチ」ー「ノコット」ル  
 ノ

443 ガッコー「ア」ガリノ「ミナライノ、グ「ン」イバツ「カ」シヤ

(そういう人でも間に合わせないと)

444 「ソ」ーダ (あっちこっちで) モー「ナ」ーモ」ーナン「ボ、「シンサツ ヨーセ  
 ンモ」ンデモ

445 ガッコー「デ」タラ モー ソン」デ グ「ン」イヤサ」カイ「ナ」ー

446 (軍医というのはだいぶ格が上でしょう) ンー ヤッ「パ」リ ナー「グ」ン  
 ソー

447 (軍曹ぐらいの) アー マー「ハジメワ マ」ー「ジョートーヘーグ」ライヤ  
 ケド「ナ」ー

448 マー ヤッ「パ」シ マー「イチ」ネンホド「フンバリ」ヨッタラ「グンソー  
 グ」ライ

- 449 ナリヨリ「マン」ガ ンー「ソナヤ」ツ ア」ンタ「ソナモ」ン「アン」バイ  
「ヨ」ー
- 450 ミ「オ」ライン「ソンデ ソノ」エーク「ス」リア「ラ」インモ」ンヤカラ ソノ
- 451 ワガ「ウ」ツッタラ「ナ」ンギヤトオ」モテ ソ「バ」イ「ヨリツッコ」ライン  
「ソーダ」ッセ 我が0、側2
- 452 ホラ モー、ナ」ー イ「マ」ヤッタラ チャー「ン」ト「ケンベンデ」モ 今2
- 453 シャー「ッ」ト「シ」ヨルケドモ「ソナモ」ン ア」ンタ チョ」ット「ウエカ  
ラミ」タ ハー 上0
- 454 エ」ライチーデト」ル「コラ モ」ーアカン」トモテブアットヤナ」ー ア」ンタ  
ナー「ニ」モ シ「ヨ」ラシメヘン 血0
- 455 フーン「マ」ー「ソンデ ワテ ウマ」イコト「ノガ」レタワケ」ヤ「ナ」ー 私0
- 456 (本当そうですね)「ア」レ「ケンベンシテ」キチャーット「シトッテミ」ナハ  
レ ソナモ」ン
- 457 「ベ」ン「オワラ」ナンド」ラ モー ンーン ナ」ー チャーガ「ワ」ルイカ  
便1、腸1
- 458 「イ」ーワ」ル インカ「ア」レ アン「バ」イ ソンデ ク「ス」リ ノ」マシテ  
「ナ」ー、フーン 胃1
- 459 「ソ」ヤケド「ナ」ー「グ」ンタイ「チュート」コワ「タッシャ」ナ「モ」ンデモ
- 460 「ヨ」ワイ「モ」ンデモ ショ「ク」ジモナニ」モカモ「イッショダッシャ」ロ
- 461 ショ「ク」ジカラ モー ド「ー」サ「ゼン」ブ「イッショダン」ガナ「ソ」ヤカ」  
ラ
- 462 「ヨ」ワイモ」ンワ「アンナト」コイ」タラ「ホラ ツマ」ラン フーン 所1
- 463 (帰ったときは複雑な心境違う?) ンー「カエッテキ」タトキ「ナ」ー
- 464 ナンヤ「シランケ」ドナ「フクザツ」ナ「ナリマ」ッセ (そうですね)
- 465 「ソンデ モーナ」ー「デモドリミ」タイニナリマ」ス「ヨ

#### IV. 文法上の特徴について

##### —— 待遇表現形式からみた船場言葉と河内弁の比較 ——

これまで岸江が関わった大阪方言の調査研究は、①泉州・紀北地域における方言地理学的研究、②大阪市方言の世代調査研究、③京阪間グロットグラム調査研究、④大阪・和歌山グロットグラム調査研究、⑤大阪府の言語地理学的研究の5つが主なものである。これらの研究では、大阪府方言における地理的な相違及び、世代的なヴァリエーションを研究のテーマとして、形態面での研究

を重視してきた。また、以上の調査で取り上げてきた項目群としては、文法・語彙・アクセントなどがその主なものであり、調査の方法はあくまでも調査票に基づく調査一辺倒であった。もちろん調査票に基づく調査法は、地域差や世代差、すなわち、方言動態や分布を把握を明らかにしていく上で有効であることに間違いがないのであるが、今回扱った談話資料には、これら質問法に基づく調査では得られない情報を別に得ることができるという点で魅力的である。

以下ではこのような点をふまえて、上記の談話資料を通じ、大阪方言の待遇表現の特色について待遇形式を抽出し、船場言葉と河内弁を比較・検討してみることにはしたい。話し手は船場が女性であり、河内が男性であるという点で、待遇表現上、その違いが現れるのは当然といえるが、談話資料をベースに待遇形式に関する特色の比較を行う。

### (1) 尊敬語形式について

#### (1-1) ハル敬語

まず尊敬表現形式として、丸山喜美子氏の船場言葉に現れる形式からみていくことにする。最も多用される形式は、ハル敬語と呼ばれるもので、これは大阪方言一般でよく聞かれる形式である。例えば、

09 オ「コ」ガ ボン「ボ」ン サンニン「イテハ」ンネ「ナ」ーテオモーン「デ」シテ

28 ホカエ「チッテシモーテハルヨ」ッテ 「ミ」ナ 「ヤカレテシ」モテ

このほか、談話テキスト上に付した番号で示すと、20、29、37、39、42、44、49、57、58、59、64、65、86、111、112、113、115、121、126、195、196、210、218、222、224、226、227、234、236、239、242、247、251、260、270、283、300、310、319、320、325、331など44例が数えられた。ハル敬語は大阪方言では聞き手乃至第三者について、よく用いられる「れる・られる」よりも待遇的に少し低い敬語である。この談話テキストでは、自分の夫と自分の母親のことについて言及する箇所があるが、いずれの場合もハル敬語での待遇はなされていない。これは聞き手（岸江）に対する配慮が働き、あえてハル敬語が使用されなかったことがその一因として考えられる。例えば、聞き手が自分の子供や親しい目下である場合には、自分の祖父母や夫などに対して、身内敬語としてハル敬語が使用されるという報告が前田（1949）にある。

橋本徳三郎氏の河内弁談話テキストでは、ハル敬語が極端に少なく、以下の4例がみられたに過ぎない。

211 「ソーユーヒト」ノジ「モ」 「シュ」リツ「シテキハ」ッタヒ「ト」ダ

216 「トナリニ、オ「テ」ラアリマン」ネン「ソノ」オ「テ」ラカ」ッテ「カイ

ギョーッタハリマン」ネン

344 アー「イカハ」ラヘン「ミ」ナ ジンジョー「ロク」ネンデ「ナ、

390 マー「コラ」ノ「ー」カシテルト」コデモヤ「ナ」ー「ウ」レテ「ユ」ータカテ  
「ウラハ」ライン

前2例が「医者」に対して、後2例は「金持ちの農家」に対して用いられたものである。河内弁でハル敬語が使われることが少ないということはないが、使用頻度の落差には男女差が大きく働いているということができる。

#### (1-2) レル・ラレル

ハル敬語と比べて待遇価がやや高い形式である。船場言葉のテキスト中では、番号36、62、182、244、274、330、338、341などの7例である。上記、ハル敬語での待遇場面と比較してここでレル・ラレルで待遇されている対象は「神」や「船場出身の人で話者にとっては目上の人」であり、ハル敬語で待遇される対象との差は明らかである。ハル敬語とレル・ラレルとの待遇の差をみる恰好の例ということができよう。河内の談話テキストでは、1例もみられない。

一般にレル・ラレルは現代の西日本諸方言においても盛んに多用される形式であり、京阪方言などでもフォーマルな場面での使用が目立つ。ただ、京阪方言などのレル・ラレルが必ずしも共通語の同形式、レル・ラレルに対応するとは言いがたい。なぜなら共通語における敬語動詞や「お(ご)～なる」などの敬語形式も現代の京阪方言ではすべてこの「レル・ラレル」が対応するという傾向が強まっているからである。つまり、現在の京阪方言の若年世代話者などでは、伝統方言で使用された豊富なヴァリエーションを有した敬語形式が軒並み退化する傾向にあり、ハル敬語と「レル・ラレル」の2つの形式に集約される傾向が強くなっている。

#### (1-3) ナサル

一般に大阪方言ではナサルよりもむしろナハルという形式が有名である。榎垣(1955)は、船場言葉では大阪弁一般のナハルとナサルとを場面に応じて使い分けたという指摘をしており、船場ではむしろナサルの方が好んで用いられたと述べている。榎垣(1955)ではさらに敬称の「様」に対応するサンにおいても、大阪方言一般で用いられるハンの使用が船場では使われることが少なかったことに触れ、船場言葉の話し手達が非常に規範志向が強かったことを述べて、船場言葉が近隣の一般の大阪方言と比較して、かなり保守的であったことを強調している。

テキスト中では、ナハルは0例、ナサルは以下の2例が観察された。

26 スンデ「ナ」サルオカタガ「チガイマスモ」ノ「ソノト」ージノオカタ

280 マー「ソーシ」タコト「ナサルダケ、ヤッパ オ「ゲ」ンキナンデス」ネンケド「ナ」ー

大阪方言一般ではイキナサル、ミナサルなどのようにナサルが補助動詞的に使用される場合は、ナハルとなることが多いが、本動詞（「する」の敬語動詞）として使用される場合は、ナハルとはならないのは大阪方言全般にいえることである。

河内弁の談話テキスト中ではナサル(ナハル)の形式は1例もない。概して、河内の老年層では、それほど尊敬表現形式が発達していないということもできよう。

#### (1－4) その他の形式

船場談話テキストには、上記の尊敬形式のほかに、次のような形式が認められた。

「オッシャル」

02 オッシャ」ッタケド アノ「オトコノコ」ガ「デキルトネ」ー アノミ」ナ「ゴゾンジ」

74 「ソレワゴゾ」ンジナ「イ」ト「オモイマス」ワ

131 ゴゾ」ンジナイカ「シランケ」ド「イ「マ」ノ「アノ ヒガ」シノ「オアリ」

330 「コラ」レタカ」タモオア「リ」ヤッタ」ンデス「ヨ、「ソ」ヤケド「ネ」ー「オアイスル」

341 オアイ「シ」タ「コ」トナイコ」ト「オ」モトラ「アノカタ」モ「オラレナイ」ネン「ナ」ト

「オメニカカル」

337 ゼン「ゼ」ン、モー イマモー オメニ「カカレン」ト「ユーコ」トワ

344 オメニ「カ」カッタ オカタデ「ゼンゼン チガイマス」ネン ソヤケ「オシラベニナル」

318 アー「ヨ」ー オシラベ「ニ」ナッテル「ナ」ー ト「オモウク」ライヤモ」ノ「ネ」ー

以上のような尊敬形式が普通に使われているというのは、現代の大阪方言と比較してみても考えにくい。また、これらの用例から船場言葉では多種多様な尊敬形式が用いられたことは想像に難くない。

## (2) 謙譲語形式について

船場言葉特有の謙譲語形式に「サンジマス」という形式がある。例、イテサンジマス（行って参ります）。船場談話テキスト中には1例のみであるが、以下の使用例が認められる。

267 「デ」キテサンジマ」ス ネー「オモシロ」イ デ「ス」ワ モー モー

そのほか、謙譲語形式として、「イタシマス」、「サセテイタダキマス」がみられた。

180 マー「ク」ローワ「イタシマシ」タ

348 「ナツカシ」ーオハナシ「サセテイタダキマ」シテ

河内弁では、謙譲語形式は認められなかった。

## (3) 丁寧語形式について

### (3-1) デス・マス

船場の方の談話テキストでは、デス・マス体が基本となっており、女性が身内以外と話す場合は、大方、このような敬体がごく普通に使用されたものと想像される。

「ひとりで行くのだ」の「のだ」に相当するといわれている大阪方言のネンは、文末助詞的な機能を持ち、遊離独立している点で共通語とは異なり、デス・マスに直接付く。テキスト中、デスネン、マスネンという形式が多く目にとまる。通常、ネンがデス・マスにつづく場合、大阪方言一般では、デンネン、マンネンとなることがあり、このような形式こそがむしろ大阪の伝統方言であると思われる。しかし、船場の談話テキスト中に現れているのは、これらの「崩れた」形式（榎垣のいう「訛語」）ではない。規範的な形式であるデスネン、マスネンが多い。これらの形式が船場ではむしろ一般的であったのか、或いは身内と身内以外、或いは親疎関係などによって、デンネン、マンネンとの使い分けが非常にはっきりしていたと想像される。因みに、榎垣(1955)では、氏が拠り所とした船場のイトハンだった入江夫人の船場言葉に対する回顧の中に、ゴザイマスという形式は訛語であり、ゴザリマスという形式を用いるよう、よくたしなめられたということが述べられている。デンネン、マンネンも同じように、その使用をたしなめられた形式であった可能性が高い。

一方、河内の談話テキストでも、聞き手（岸江）に配慮して、デス・マス体が基本になっているが、先の船場の場合と異なり、ここではマスにネンが続く折、マンネンが優勢である。マンネンが8例に対してマスネンは1例のみである。

「ます」がマ、マッと省略されたり、「ますか」がマッカ、「ますけど」がマッ

ケドとなるケースも船場談話テキストでは現れないが、河内談話テキストには散見される。

246 ムカシ「カラ ソレ」イマ「ムスコノ」ダイニナッテ「マ「ホラ モー ナカナカ

319 セン「ゴロツピャク」ニント「チガイマッカ

365 ジー「ヨ」ーカキマツケ」ド「ナ、ンー マー ジーノ「ジョーズヘ」タワ コラ

「ます」に関連して、大阪方言では丁寧語の打消形式に明らかな変化がみられる。例えば、「行きません」・「見ません」・「来ません」などの丁寧表現の打消形式には大阪方言一般でそれぞれ2種類の形式が認められる。「行きません」ならば、イキマヘン（イキマセンとも）という形式とイキワシマヘン（イキワシマセンとも）という2つの形式である。後者はさらにイキャシマヘン、イカシマヘンなどの形式に変化しているが、最近、大阪方言において、後者の形式が聞かれなくなりつつある。すなわち、前者の形式に一本化される傾向が窺われる。これは本来、「行かぬ」から変化したイカンという形式と、「行きはせぬ」から変化したイカヘン（イケヘン）という2つの形式がイカヘン（イケヘン）に一本化しつつある傾向と軌を一にしている。この両者には、本来、打消の程度に差があり、前者が「弱い打消」であるのに対して、後者は「強い打消」であるという指摘がある。

「行きはせぬ」の丁寧形式であるイキワシマヘンの類の形式が両談話テキストには共通して現れ、とりわけ河内弁に多く現れている点に注目しておきたい。

まず、船場談話テキストからみていくと、

04 イマ「コ」ソ「ナツマ」ツリモナ「ン」ニモ アレ「シマセンケ」ド「ネ

149 「アワ」レシ「マセンデシ」テ「ネ、「ホンデ」ヨー「ヤ」クソ「コ「デ」ヒトバン  
「ア」カシテ

168 カエラ」レ「シマセ」ンデ「ホンデ ア」ンタ「コンナト」コーオ「ネ、チョ」ッ  
ト マー

206 「ミチズ「ッ」ト、ハ」シガアッ「タ、ナーン「ニ」モアレ「シマヘン

251 アケタラハ」リヤ「シマセン」ネン「テ、「デキナ」カッタンカナン」カ「シリマ  
センケ」ド

など5例で、いずれのケースも「行きはせぬ」、つまり「強い打消」の意味を残した丁寧形式といえるであろう。一方、「行かぬ」に相当する「弱い打消」の丁寧形式には、

67 アリマセ「ン アリマセ「ン モー ゼン「ゼン、「ソーデシ」テン マー

200 チョッ「ト」モアリマセン「モ」ノ「ネ」ー

201 ソー「ゼンゼン」アリマセンモ」ノ

の3例(4例)がみられた。

河内談話テキストにおいても、「行きはせぬ」の丁寧形式では、

- 13 モー(南方の方へ行かれましたか)「イ」ヤイ」ヤ「ナンポー」マデ「イ」カ「シメヘン
- 34 (73部隊のどこへ)「ドコ」ヤ「ワカ」ラシマセ」ン
- 75 「ヒト」ツモ「アタ」ラシメ」ヘン ソ「コ」マデ「トド」カシマヘ」ンネヤ
- 80 モー ブツブツニ「タイタ」ルヤッチャタラ「ハ」ラ「トー」ラシメヘ」ンデ
- 102 モッ「ト」ク「ダケ」ダン」ガナーアーメ「ー」モ「ミ」ミモアラ「シメヘン」ワ
- 107 (熱とか何かなかったですか)「ネ」ツ「ヒト」ツモア」ラシメヘン
- 127 「デンセン」ビョートキ」タラ「ホッタラカ」シダッセ ク「ス」リアラ「シメヘン」デ
- 139 ド」ッド」ド」ッド「トー」リタオシテ」モータ ナ「ニ」モク「ウ」ー「シメヘン」ヤンナ
- 164 「ダイナシ」、ク「ス」リアラ」シメヘン「ホッタラカシダ」ッセ
- 169 「ヨ」ー「キヨ」ラ「シメヘン」ンー ホンデ「ベツニナ」ー オカイサ「ン」テ「ユー」ノ
- 176 イヤ「デンセン」ビョーヤ」テユーコ」トワ「ヒト」クチモ「ユオ」ラ「シメヘン」ム」コーワ
- 184 ゼッタイニモド」ッテ キ「ラ」ラ「シマセン」フン「ホラモ モ」ーナ」ー
- 204 マジラシメヘン」ネ(そうですね) モー「イクト」ツカラ
- 218 モー「ソノマ」ー ナン」ヤ マスイ「ノ」チューシャ」モナン「ニ」モアラ「シメヘンノ」ヤ
- 229 「ヨンジューニチノアイラ、「ア」シタタ「シメヘン」「マ」ー アノー
- 240 「コッチム」イタリ マー「デケルグライデ、「ソ」ヤケド アル「カ」ラ「シメヘン」ネ
- 247 ホラモー ンナー チュー「シャ」ヤナンテ イッ「ポ」ンモアリヤ「シメヘン」ワ モー
- 251 ア「ラ」シメヘンンー「ソラモ」ー「エ」ライメー「オーテマン」ネン「デ、ワ「テ」モ
- 297 モー「フクマ」ンジンマデ ノ「ハ」ラ イッケンノ「イ」エモアラ「シマヘン」デ(昔)
- 300 アツカラ「ヤオ」マデ「イ」エ イッケ「ン」モアラ「シメヘンガ スッ「ク」リ
- 310 (境が皆引っ付いたみたいな) モー「ヒツツイテモ」テ「ワカ」ラ「シマヘン」ンー



- 318 イヤ「ソナイエ」ライ ニ「ン」ズーヤ アラ「シメヘン」「ソンデ」モー  
 362 「ヨ」ー「シッテルモ」ンワ 「エ」ローアラ「シメヘン」「ソラー マ」ー  
 381 (東大阪って言っているところは?)「ヒガシオ」ーサカチューノワ アラ  
 「シマセンナ」ー  
 388 (なかなかその土地、建ててる所ないですね) タテル「ト」コ アラ「シメヘン  
 389 (空き地という所ないですね)「アキチ」テアラ「シメヘンデ イマ「ナ」  
 411 イマ「マ」タ「コドモデ」モ「ホンマニ」ク「オ」ラ「シメヘンヤ「ロ、  
 418 「シゴトニ」ナ「ラ」イン (体力持たないということですね) モ「タ」ー「シメ  
 ヘン「マ」ー

と多く、28例がみられた。このうち、13例は「有る (有りはしません)」の打消である。「行かぬ」に相当する「弱い打消」の丁寧形式は、

- 37 「ナナ」ジューサンプ「タイチュ」ータカテ「ソナナモ」ン アリマセ「ン」  
 チューワ  
 118 フツーノ「ベ」ンジョ ソバ「ニ」アンノ ソ「バ」エイ「タラ「アキメヘン」ネン  
 195 「アキメヘン」ノヤ「ナ」ー「マ」タ「ナ」ー「カエッテキ」ター「マ」タ  
 232 「ソナナチー」オ「リ」タリ「ソナナ マ」ー「イ」タイテ「ユーコ」ト「オメヘン  
 ケ」ド「ナ」ー

の4例が確認できた。ただ、これらはいずれも特殊なケースであると思われる。まず、番号37のアリマセンは引用されたケースである。番号118、195のアキマヘンは常体の折でもアカヘンとはならず、アカンとだけ使われる形式である。番号232のオメヘンは、後述する丁寧動詞オマスの打消であり、すでに動詞自体に丁寧の意味が含まれている。このような点で、河内弁の場合、丁寧形式の打消は、「行きはせぬ」型の丁寧形式がほぼ専用されているともいえよう。

船場言葉にみられるアリマセンの形式は「行かぬ」型の打消の丁寧形全般を含めて現在の大阪方言では一般的となりつつあるが、河内弁との比較において、大阪方言における打消の丁寧形式の変遷を考える上で当談話テキストに現れた違いというのは有効な資料であると思われる。

### (3-2) ダス・ダ

船場談話テキストでは、マスネンのほか、デスネンという形式が現れるが、河内談話テキストではデスネンという形式は皆無である。ではデンネンという形式が圧倒的に多いかというと、これもまた、使用例は0である。デスそのものが使用されることはないといってもよい。その代わりに、デスに当たる形式が多く現れる。ダ、ダッセ、ダンナ、ダンガナなどのダという形式がそれである。もちろんこれは共通語の断定辞ではなく、紛れもない丁寧形式である。

- 02 ウン ソーダ「トクガワノト」クダ  
 39 「ジェ」ンブア」リヤ「センシダン」ナ  
 54 ア「ラ」シメヘンガ「ナ、ナ ハー「ホッタラカシダ」ンガナ  
 164 「ダイナシ」、ク「ス」リアラ」シメヘン「ホッタラカシダ」ッセ

ダは、ダスの省略形である。ダスは、河内談話テキストの中に1例のみであるが現れる。

- 341 ロッ「カ」ソンワ「ゼ」ンブ「オーカタ ノ、ノ「ー」ギョーダス「ナ、マー

ダスは大阪方言ではデヤスから転じたものといわれている。デヤスからダス、更にダへと簡略化していった。大阪府泉南地方では、丁寧形式として、ヤスという形式が用いられるが、これはデヤスのデが落ちたものであろう。また、同じ泉南地方の貝塚市蕎原（そぶら）方言では、ジャスという形式が戦前あたりまで使用されていたが、これもデヤスから変化したものである。

船場談話テキストにはダス・ダという形式は1例も現れていない。大阪方言ではダスからデスへの移行があったことに違いないが、デスそのものがかなり以前から根づいていたことも確かで先のダッセ、ダンナ、ダンガナに対して、デッセ、デンナ、デンガナという形式などは今ではむしろ伝統方言の部類に属している。

### （3-3）ゴワス

船場の談話テキスト中には現れなかったが、船場ではこの地特有のゴワス（「ございます」に相当）という形式が用いられた。録音を終了した直後に、丸山喜美子氏が「ソ」ーデワ「ゴワヘンと言ったことが今も記憶に残っている。

河内での使用はこれまで聞かない。

### （3-4）オマス

大阪の伝統方言ではオマス（「あります」に相当）という形式がある。船場の談話テキスト中では、

- 340 「ショーガオマヘンデッシャ」ロ ヨー アルキマス「ケ」ドモ  
 の1例を数えるのみであるが、河内の談話テキストでは、  
 286 「テマエニ オマン」ネン「ア」レナー「ミヤ」マ「ジュ」ーホーチュ」ーテ「ナ  
 289 クイトメ「ル（八尾の飛行場は昔からありましたか）「ム」カシカ」ラオマ」  
 シタ（やっぱり）  
 290 「ムカシカラ ワテ」ラ モー「ハタチグラ」イノ「ジブンカラ」ヒコ「ー」  
 ジョー「オマ」シタ

などのほか、

- 81 イット「マン」ネン アレ コチコチ「ダン」ガナ ハー「ア」ー

82 「コマ」コイ「マ」メマナイッ「テー、ソノー「メ」シト「イッショニタイトマン」ノヤ

などの例を含めると、19例が認められた。ここにも船場言葉と河内弁の間に、オマスをめぐるその使用上の頻度差が明らかである。「ます」と同様に河内弁で「おます」は、上の例にもあるように、オマッセ、オマンネンのほか、オマ、オマッなどとなる。船場談話テキストでは、オマスの代わりにアリマスが用いられ、対照的である。

40 ヤッパ「リ「ソ」レアリマス」デ「ショ、「コノ ハリコ チッサ」イトラ「ネ

54 イ「チ」トアリマス」ネン「ナ、「ヒチ」ガツノソート ソノ ヨ「ミ」ヤノ

58 「ジュンバンニ」マ「タ「デハル」オウ「チ」モアリマスチャント 「イ」ミ「タ」ダシテ

84 「イマダニ、アノ ソノ」ヒガ「シ」クニ アノ「コセ」キガアリマ「ス」ネン「ホ」ナ

船場談話テキストではこのほか、22例のアリマスが数えられた。談話中にオマスという形式が船場言葉でも用いられたことを丸山喜美子氏は内省しているが、その使用は河内弁と比較して、非常に少ない。船場ではオマスの使用は女性に比べて男性に多かったといえるのであろうか。

#### (4) 美化語形式

特に、船場談話テキストに現れる美化語について、以下に掲げ、テキスト中の文番号を示す。

26・57・111・114・196・224・274・329・332・344 オカタ（お方）

57 オウチ（お家）

57 オヤク（お役）

210・254 オトモダチ（お友達）

224 オショーバイ（お商売）

285 オトシ（お歳）

数十分程度の談話の中からも、いくつも拾い上げることができ、船場言葉には相当数多くの美化語が普段使われていたことが容易に想像できる。京言葉との美化語の比較など、興味を持たれるところである。

#### (5) 軽卑語ヨルについて

京阪方言を除く西日本の大半の方言において、ヨルは進行態を表すアスペクト形式として機能するが多いが、京阪方言にはその機能がなく、軽卑語と

して機能していると一般的にいられている。

上記、談話テキストのうち、船場ではヨルの使用は1回も認められなかったが、河内弁のテキストの方には多く現れている。当然、ヨルの使用については、その意味機能からして、大阪では男性の使用が多く、女性の使用は少ない。

以下では、河内談話テキストの中から、ヨルを取り上げて考察してみることにしたい。

- 70 「バー」ット「ボ」タン「オシ」ヨッタラ「ソレー、ビューット ナゴナッテ」ク  
ンノニ
- 72 「ソ」ーダ ウッ「チ」ヨンネン「ソ」ヤケ「ド」モ ヤッ「パ」シ「ナ、モー「イチ  
バ」ン
- 185 「グ」ンタイワ モー「デンセン」ビョーガ「イチバン イヤガ」イヨル ミン  
「ナ、
- 191 アーソコデ「ヨ」ー「シニヨルラシハ」ッテ「アタ」マガ「ボー」ットシタヤ」  
ツガ
- 257 ハー ソンデ マー「テキ」キガキョ」ッタラ ウチオト「ス」ワケ」ヤネン  
「セ」ヤカ」ラー
- 451 ワガ「ウ」ツッタラ「ナ」ンギヤトオ」モテ ソ「バ」イ「ヨリツッコ」ライン
- 453 シャー「ッ」ト「シ」ヨルケドモ「ソンナモ」ン ア」ンタ チョ」ット
- 454 エ」ライチーデト」ル「コラ モ」ーアカン」トモテブアットヤナ」ー ア」ンタ  
ナー「ニ」モ シ「ヨ」ラシメヘン

まず、これら8例はアスペクトとしてではなく、すべて軽卑語として使用されていると思われる。

京阪方言では、1人称、2人称が主語となる場合、ヨルが使用されることはほとんどないといってよく、以上の用例はすべて第三者に対して、用いられたものである。ヨルは第三者に限定して用いられ、第三者の動作を軽く低めるという特色がある。同じ卑語として、談話テキスト中に現れなかったが、大阪方言ではヤガル、ケツカルという卑語がある。ヨルはこれらと比べると、その低める度合いが低い。ヤガル・ケツカルでは、その卑しめる度合いが甚だしいため、通常、丁寧語の「ます」とは共起することはない、したがって「しヤガリマシタ」、「してケツカリマス」ということはない。しかし、ヨルの場合、「ます」との共起が可能である。すでに述べているように、談話テキストの話し手はデス・マス体を基本としているにも拘わらず、以下のように、ヨルがマスに直結する、つまり共起した例が豊富に得られる。

- 23 ハイ「ニ」ホンデ モー カクリ「シヨリマシ」テンヤ「マ」ー「ヒト」リデ」モ

- 65 ハイッタ「ヒ」ー「ワ、ソラ ケンガクサッシヨリマン」ネン「デ、イチニチ」ワ」ー ソラ
- 130 モッテ「キヨリ」マン」ネン ハー マー 「エ」ライオ「バ」ーサンノカンゴ」フダ
- 131 「エ」ライ「マ」スクカケ「テ」モッテ「キヨリマン」ネヤナハー「シー」ロイ「マ」スクデ
- 160 「ソーユーナ」ー ク「ス」リモ ア「リャ」ー アー「ン」ヤ「テ」アテモ「シヨリマン」ネン「デー、
- 169 「ヨ」ー「キヨ」ラ「シメヘン ン」ー ホンデ「ベツニナ」ー オカイサ「ン」テ「ユー」ノ
- 189 ダスダ「ケ」ダ「ソ」ート「オ」モテ ナガイ「コ」トハイッ「テ」タラ「ヨビニキヨリ」マンガナ
- 199 フ「シ」ンバンガ「ムカエニキヨリマン」ガ「ソナイシ」テ ヨ「ビニキヨリマン」ネン ン
- 224 「プー」トフイテ「シュ」ート「アテヨリマン」ネン（無茶苦茶ですな）
- 236 キリヨリ「マシ」テン フン「セ」ヤサカイニ モー「コノグライノ モー
- 260 「ヤオデ、ソラモー サ「ン」カイホドシ「ケ」ン「シヨリマシ」タ「デ  
（目の試験もしますよね）
- 266 「ソラ ジューブ」ンニ「シケ」ン「シヨリマシ」タ「デ、ホンデ ア」レ「ナ」ー「ヤオデ

以上、12例もの使用がみられた。現代の大阪方言、とりわけ中年層以下（戦後生まれ）の大阪方言では、このようにヨルとマスとが共起するケースはほとんどなくなっている。

## V. 単語アクセントの抽出

### (1) 方法について

ここでは方言アクセントの記述を、通常行なわれる単語調査表を使う読み上げアクセント調査でなく、好個の談話録音資料を得たことを機会に、自然談話資料からの単語アクセント取り出しによる集計によって、単語アクセントにおける「方言標準アクセント（その方言としての標準フォーム）」と自然談話との差がどのようなものであるかという点に興味を置きながら問題点を探る試みである。

今回使用する談話資料は、岸江信介収録になる「これぞ大阪弁」純粋大阪方言の話者2名（船場ことば・丸山喜美子さん、河内弁・橋本徳三郎氏）を得て、

それぞれの文字化をし、アクセントエーション（アクセントピッチ付け）を施し（単語を中心とする部分にアンダーライン）、当該単語にアクセント型記号（0、\*0、1、2）をつけて行末に取り出して、集計して分類をする。

単語の分類は、これまで大阪アクセントについて知られている分類体系を目安にして次のように設定する。この方法で、すべての単語別に取り出すことが可能であるが、今回は1、2拍名詞に止める。

## （2）単語アクセントの実現

本稿の目的は、方言アクセントの研究がこれまで、単語中心の話者の内省及び、選ばれた話者（インフォーマント）の「文字読み」の聞き取りを中心に行なってきたことに対して、実際のナマの話し言葉をのみ対象とする、その聞き取りからの分析をもって、方言アクセントの記述をするというところにあり、これまでその観点からの近畿アクセントに関する先行研究は決して多くない。今回は、その可能性を探る試行段階で、問題点としていろいろ考えられる中、2点を取り上げる。

課題1として、今回のテキストから得られた単語アクセントが、従来定説的に考えられている「（規範的）大阪アクセント＝S」とこのような「個人的大阪アクセント＝P」の違いという点に絞って見る。これには、これが純粹に当該個人に限られるものであるかどうかという前提条件的な問題があるが、当面は、実験的に色々なケースに当たる経験に務めるしかない。

「船場」の例で言うと（以下の小文字（1、2…）は「語類別」）、1拍語「気、子、日、火」、2拍語「(1)笹、顔、道、虎、(2)次、人1、(3)浜、物、幕、時、事、(4)空、筋、中、(5)雨2」は順当（SとPが同じ）であるが、2拍語「(2)下0、橋2、為0、人20、(3)足2、年2、竿2、店0、穴0、月0、事0、(4)外2、(5)朝0、雨0」は不順（SとPが異なる）である。その時そのような不順がどうして存在するか一語一語について考える必要があるし、それがこの個人だけの特徴であるかを確かめる必要もある。その意味でもっと多くのデータに当たらなければならない。

「河内」においては、1拍語「(1)気、血、痔、(2)日1、(3)目\*0」は順当であるが、「(2)日2、(3)木8、手2、目912」はそれぞれ問題がある。2拍語も「(1)道、こて、横、筆、虫、海老、箱、金、顔、(2)音、昼、杭、(3)米1、腹、耳、物、足12、家イエ2、豆、事、(4)後\*0、船\*0、中\*0、(5)朝2」はそれぞれ順当であるが、1拍語「戸1、血1、日2 巢0、目912」、2拍語「(2)昼20、(3)米0、腹0、耳209、(4)側29、外2、中21、(5)朝\*081、前1」は不順（SとPに差あり）とい

うことになるが、京阪神で方言あるいは個人で単語レベルでの不順はありうると考えられる。

一般的に近畿方言は関東方言に比べて語アクセントの規範が厳格（乱れない？）と思われているかも知れないが、その詳細を調べることは、際限がなくてどれほどの意味があるか分からないが、問題として興味を持てる事実もある。それは、船場の丸山さん（m）や、八尾市萱振の橋本氏（h）の言葉の中に、通例、高起式0と考えられている「顔」や、高起式1の「店、月、腹」が、低平調無核の0で実現していることである。

前者の例：h132 カオ「ア」ンバイワ「カラングライ、

後者の例：m 14 ミセノヒ」トガ、

m138 ソコエ ポッ「ポ」トアナ、

m252 ツキ「カ」ワッタラ イッペン「ナ」ー、

h 78 ハラ「ト」ーッ「タ」ンガ、

名詞連文節の前部である「店の」以外は、助詞を持たない単語単独形であるのは偶然であろうか。シンタクス上「名詞中止形」というべき意味があるかも知れない。今後これをヒントとして近畿アクセント圏各地の例に当たってみたい。

（課題2－1）会話文における高起式の実現。

いわゆる高起式低起式の単語アクセントが、実際の文ではどのように実現するものであるか。一般的にはそれは「高く始まるか、低く始まるか」の違いだと言われて、2拍語「釜～釜が/鎌～鎌が」は観念的に[●●～●●▲（高く平ら）/○●～○○▲（低く始まって末部で上がる）]という違いのように考えられているが、文字を読むアクセント調査でその絶対的「高低（黒白）」が必ずしも的確に感知され難い、それを明確に聞き分けるためにはアクセント調査において、金田一春彦氏発案と言われる、連体詞「あの」を用いて[「アノカマ」というか、[「アノ」カマ]というかを調べるような方法がなされるのであり、それが有効であることは事実であるが、実際の近畿アクセントの会話はどのようなものでしょうか。会話のアクセントについては、和田実氏「関西アクセントの印象」によっても知られるとおり高起式低起式の連続ないし交錯により、「上がったたり下がったり」の変化激しい会話のような印象が持たれているが、阪神地方でも時にその強弱が微妙な会話を聞くこともある。それには多少方言差もあるのではないかと予想されるが「上がったたり下がったり」はどんな場合か、それが顕著な時と、顕著でない時はどんな場合かに興味を持たれる。それをここで近畿アクセントの代表である大阪アクセントについてその典型を1度確認をしておきたい。具体的には、高起式、低起式の単語アクセントの実

際の文における実現例に当たる必要がある。

高起式無核の代表語「それ、金」は、連文節「それつけて、金のある」で m41 [「ソレ」ツケテ]、h343 [ヨッポド「カネノ」アル「ウ」チャ] のようにで確かに●●（高高）と実現しているが、多くの場合、実態として○●（低高・並み上がり上昇）も少なくなく、必ずしも絶対に●●と決まっているわけでないようで、その場合は高起式/低起式の差がやや曖昧化する。

その内、○●調であっても、h241 [ヨ「コン」ナッテ]（横）は後行語が低接であるため先行語の「高」が顕現化する例であるが、現実には後行節のすべてが低接化するわけでないので、逆にそれが順行（先行節の高さに倣う高さ）するため、相対的な「高」がよく分からなくなる。例として、h241 [エ「ビミ」タイニ]（海老みたいに）、h367 [フ「デモ」タシタラ]（筆持たして）、h192 [ソ「ンナモ」ー ク「ビツッタ」リ] ~ 241 [ク「ビツッタ」リ]（首吊ったり）、h31 [ヨ「コニ」モー「ナー」]（横にもう）、m245 [イッペン チョ「ット」カ「オーミニイ「コーユ」ー「テ」]（顔を見に）などがありそれが決して少なくない。そして、文節が独立的に言い切られるときの、h39 [セ「ンシマ」ー ミ「チデ」]（道）のように後行語がない場合は、全体の「高」も顕現化しない。

次に高起式語であっても後行文節において全体が低平化することがある。

例は

h406 [「コ」メ ムシク「テ」]（虫）、h387 [タ「テ「ヨ」トオモ」ーター「オ」クノカネイルサ「カイ「ナ」ー」、m37 [「ソノト」キニトラオモ「ーテ」キハ「ン」ノ]、m38 [「アリマス」デショハリコノトラ]、m40 [「ハリコ」チッサ「イトラ「ネ」]（虎）など。

次に助詞を伴わないで、文中単独的に用いられる場合も低平調が実現する。

m40 [トラ アリマス「デショ」、h223 [ソノコ「テ」]（こて）、h154 [アト「ナ」ーソレ「デ」]（後な、それで）

（課題2-2）会話文における低起式の実現

次のように低起式語の見られる文を集める。規範的大阪アクセントでは4類（空、中、筋、外、側、後、船、何ほか）は○●~○○▼、5類（朝、雨、前ほか）は○●~○●▽となっているが、実際の文における単語及び文節のアクセントはどう実現しているか。

○○

m 98 アノ ソラ「トンデ」タ（空飛んでた）、

m135 ヒ「ト」バン「アカシマ」シタ アサ モー（一晩明かしました、朝もう）

m420 モーアサ ド「ク」ジカラ「ナ（もう、朝6時からな）



m426 アサ パ「ンシヨク」ヤシ (朝、パン食だし)

h 451 ワガ「ウツ」ツタラ「ナ」ンギヤトモ」ツテ (自分に移ったら)

m136 ホントニ「ク」ロイアメ (本当に黒い雨)

h 154 ソ「レカラ」モー アト「ナ」ー (それからもう後な)

○●

h 129 ア「サ」ヒルバ「ント」「サ」ンシヨク (朝、昼、晩と三食)

○○▽

m225 アトワ「ミ」ナ アノ (後は皆)

h 40 アレ フネデ「イカ」レ「タ」チューコト

○○▼

m110 「ソノ」スジ「ノ」、アノ (その筋の、あの)

m 15 「セーカツノ」ナカ「ニ」ハイッテ「ナ」カッタ

(生活の中に入ってなかった)

○●▽

m 36 ア「メ」ガフッテ (雨が降って)

m338 ワタ「シ」タイ「ガイ」ヨ「ー」ソ「ト」イデマ「スネン

(私、たいがい外へ出ていますよ)

m 85 「ホンデ」モー ア「サ」ー「ドー」ット (それでもう、朝はどうっと)

m227 ナ「カ」マデハイル「グ」ライキリトッテモ「ローテ」(中まで入るぐらい)

m442 ソ「バ」イヨ「リツッコ」アラ「ー」ヘンワ (側へ寄り～)

m177 「マ」タ ソ「ト」イデ「テ」ヘ「ヤ」エハイッタ「ラ

(外へ出て、部屋へ入ったら)

m401 ア「サ」モヒ「ルモ」バン「モ」(朝も昼も晩も)

m403 ナ「ニ」モクワント (何も食わんと)

○○▽

m114 ハコンナ「カエイ」レ「テ」(箱の中へ)

m 20 「イチニチマ」エ「ニ」(一日前に)

## 参考文献

前田勇 (1949) 『大阪辯の研究』 朝日新聞社

樫垣実 (1955) 『船場言葉』 近畿方言双書第2冊 謄写版